

第 71 回通常総会議事録

1. 日 時：令和 8 年 6 月 18 日（木）15：00～16：35
2. 会 場：神戸ポートピアホテル 南館 1F「大和田 C」
3. 出席者：評議員総数 217 人の内 210 人出席
（うち委任状 52 人）

4. 出席役員

理 事：（理事長）友 雅司，（理事）阿部雅紀，
猪阪善隆，繪本正憲，小川智也，
菊地 勘，倉賀野隆裕，小岩文彦，
後藤順一，酒井 謙，鶴屋和彦，長沼俊秀，
中野敏昭，西尾妙織，花房規男，林 香，
平和伸仁，深澤瑞也，正木崇生，
米田龍生，脇野 修（以上，21 名）

欠席理事：菅野義彦（以上，1 名）

監 事：内田潤次，小川哲也，齋藤 満
（以上，3 名）

5. 議長及び議事録署名人の選出

定款第 30 条により定足数を満たしており本会は適法に成立した。定款第 28 条に基づき，第 71 回学術集会・総会倉賀野隆裕会長が議長に選出され，開会を宣し，議事に入った。

倉賀野隆裕議長から，定款第 32 条に基づき，議事録署名人を議長及び出席者の代表 2 名以上の者を選任する必要がある旨説明し，次のとおり指名し，全会一致で承認された。

議事録署名人 友 雅司評議員，阿部雅紀評議員

報告事項

1. 一般社団法人日本透析医学会の状況

1) 会員状況

（1）一般社団法人会員状況（令和 8 年 3 月 31 日現在）

年 度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
正 会 員	14,095	14,107	14,178	14,225
施設会員	4,168	4,181	4,183	4,167
賛助会員	60	58	55	51

2) 物故会員（敬称略）

赤嶺勝成，荒川俊雄，有賀誠記，石川和美，
市川晴夫，伊從敬二，岡 治道，勝又廣重，
酒井 實，澤田重樹，塩井 淳，島津偉一，
清水 篤，下郷 泉，高田幹彦，竹内 拓，
寺尾尚民，寺田光男，中山大典，野口 啓，

肥田和之，藤田嘉一，前田憲志，三上有子，
三宅 晋，盛三千孝，森脇健史，安田和弘，
横山義弘，吉沢マサエ，羅 仕文

（五十音順）

3) 役員・評議員・名誉会員状況

役 員

理事長 友 雅司
常任理事 阿部雅紀，猪阪善隆，酒井 謙
理 事 繪本正憲，小川智也，菅野義彦，菊地 勘，
倉賀野隆裕，小岩文彦，後藤順一，
鶴屋和彦，長沼俊秀，中野敏明，西尾妙織，
花房則男，林 香，平和伸仁，深澤瑞也，
正木崇生，米田龍生，脇野 修
監 事 内田潤次，小川哲也，齋藤 満

評 議 員

（計 217 名）第 7 回評議員

赤井靖宏，浅井利大，朝田啓明，浅沼克彦，東 治人，
阿部雅紀，雨宮守正，荒木信一，荒木崇志，荒木英雄，
安藤忠助，安藤哲郎，家原典之，井尾浩章，池田直史，
池田雅人，猪阪善隆，石井大輔，石田英樹，石津 隆，
石橋由孝，和泉雅章，磯野元秀，一色啓二，
井手健太郎，伊藤孝史，稲熊大城，今田崇裕，
岩田恭宜，岩谷博次，内田潤次，内山清貴，海上耕平，
榎田英樹，海老原至，繪本正憲，大島直紀，大城義之，
大田 聡，大坪 茂，大橋 靖，岡田浩一，緒方浩顕，
小川哲也，小川智也，柏木哲也，春日弘毅，上條祐司，
川合 徹，川口祐輝，川瀬友則，河原崎宏雄，
神田英一郎，神田武志，菅野義彦，菊川忠彦，
菊地 勘，菊池正雄，北村健一郎，木村朋由，
熊田憲彦，倉賀野隆裕，小出滋久，小岩文彦，
合田朋仁，河野圭志，後藤順一，後藤俊介，小林洋輝，
小林広学，小林 衛，小向大輔，米田雅美，小山一郎，
今 裕史，齋藤知栄，齋藤 満，酒井 謙，酒井行直，
坂口美佳，櫻田 勉，佐々木健介，佐藤純彦，
佐藤 暢，佐藤元美，志熊聡美，島野泰暢，清水泰輔，
常喜信彦，白石晃司，新宅究典，杉浦寿央，杉田省三，
鈴木 朗，鈴木一裕，鈴木利彦，鈴木 仁，瀬田公一，
蘇原映誠，祖父江理，高田知朗，滝沢英毅，滝本千恵，
竹内康雄，竹田徹朗，田代 学，田中賢治，田中啓之，
田邊克幸，田邊 起，谷口正智，谷山佳弘，玉垣圭一，
田村功一，丹野有道，辻本吉広，津畑 豊，鶴屋和彦，
土井研人，戸川 証，徳本正憲，徳山博文，友 雅司，

友利浩司, 内藤省太郎, 長井幸二郎, 中倉兵庫,
中島 歩, 中田純一郎, 長田太助, 仲谷慎也,
長門谷克之, 長沼俊秀, 中野敏昭, 中ノ内恒如,
中村典雄, 中村道郎, 中山晋二, 名波正義, 成瀬友彦,
西尾妙織, 西田隼人, 西野友哉, 二瓶 大, 野口智永,
橋本幸始, 長谷川毅, 服部憲幸, 花房規男, 浜崎敬文,
濱野高行, 早川和良, 林 香, 林 晃正, 林 秀樹,
早田 学, 原澤信介, 播本幸司, 番匠谷将孝,
樋口輝美, 平間章郎, 平山浩一, 平和伸仁, 深澤瑞也,
深水 圭, 福田顕弘, 古市賢吾, 古野剛史, 星野純一,
細島康宏, 本田浩一, 前田兼徳, 正木崇生, 升谷耕介,
松尾七重, 松岡哲平, 松下和通, 松田洋人, 丸山彰一,
丸山高史, 丸山範晃, 丸山之雄, 三浦健一郎,
水崎浩輔, 三瀬直文, 溝渕正英, 満生浩司, 水口 斉,
三野和宏, 宮園素明, 宮本 哲, 望月保志, 森 克仁,
森 建文, 森下義幸, 森本耕吉, 森山能仁,
安田日出夫, 柳田太平, 山川智之, 山口慎太郎,
山田俊俊, 山中正人, 山本 泉, 山本 聡, 山本 卓,
横地章生, 吉田 理, 吉田英昭, 吉嶺陽仁, 吉本明弘,
米田龍生, 頼 建光, 若杉三奈子, 脇野 修,
鷺田直輝, 渡辺 誠

(五十音順)

名誉会員

秋澤忠男, 阿岸鉄三, 秋山暢夫, 浅野 泰, 天野 泉,
安藤亮一, 井関邦敏, 稲葉雅章, 稲本 元, 今田聰雄,
岡田一義, 小野利彦, 海津嘉蔵, 川口良人, 川西秀樹,
衣笠えり子, 草野英二, 熊谷裕生, 黒川 清,
下條文武, 斎藤 明, 佐中 孜, 重松 隆, 穴戸寛治,
進藤和彦, 鈴木正司, 高光義博, 土谷 健, 椿原美治,
内藤秀宗, 中尾俊之, 仲谷達也, 中西 健, 西澤良記,
新田孝作, 沼田 明, 長谷川廣文, 原 茂子,
平方秀樹, 藤見 惺, 藤元昭一, 横野博史, 水口 潤,
峰島三千男, 森石みさき, 八木澤隆, 山縣邦弘,
吉田一成, 吉田克法, 頼岡徳在, 竜崎崇和, 渡邊有三

(五十音順)

2. 令和8年度事業計画に関する件 (後記43頁)

各担当理事から, 令和8年度事業計画について, 詳細な報告があった。

3. 令和7年度事業報告に関する件 (後記8頁)

各担当理事から, 令和7年度事業報告について, 詳細な報告があった。

4. 令和7年度監事による監査報告に関する件

(後記73頁)

内田潤次監事から, 令和7年度の事業報告, 計算書

類, これらの附属明細書, その他理事の職務執行の監査を行った結果, 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示している。

また, 理事の職務に関し, 不正の行為又は法令等に違反する重大な事実認められず, 本法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当であり, 計算書類とその附属明細書は本法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているとの報告があった。

5. 令和8年度正味財産増減予算に関する件

(後記70頁)

花房規男財務担当理事から, 資料に基づき, 詳細な報告があった。

6. 第72回総会並びに会長に関する件

第69回通常総会において承認された, 令和9年度第72回脇野 修次期会長から, 会期は令和9年5月28日から5月30日に, 「時代を生き抜くたくましい透析医療」をテーマに, 会場は東京国際フォーラムを主会場として開催するとの説明があった。

7. 第73回総会並びに会長に関する件

第70回通常総会において承認された, 令和10年度第73回正木崇生会長から, 会期は令和10年6月30日から7月2日, 会場は神戸国際会議場を主会場として開催を予定しているとの説明があった。

審議事項

1. 一般社団法人日本透析医学会評議員選出規則の一部改正(案)に関する件 (後記74頁)

米田龍生評議員選出委員長から, 資料のとおり説明があり, 審議の結果, 満場一致で承認された。

2. 令和7年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 (後記58頁)

花房規男財務担当理事から, 資料のとおり説明があり, 審議の結果, 満場一致で承認された。

3. 名誉会員推薦に関する件

倉賀野隆裕議長から, 定款施行細則第2条第2項の規定による名誉会員推薦について, 次の者を令和8年3月26日開催の理事会で承認し, 本総会に推薦したとの説明があり, 審議の結果, 満場一致で承認された。

武本佳昭 川島病院

前野七門 仁榆会札幌病院

(50音順, 敬称略)

4. 第74回総会並びに会長に関する件

倉賀野隆裕議長から, 定款施行細則第23条に基づき, 阿部雅紀評議員が令和11年第74回会長候補として, 令和8年3月26日開催の理事会で選任されたとの

説明があり、審議の結果、満場一致で承認された。

続いて、阿部雅紀次次次期会長より充実した大会にしたいとの抱負が述べられた。

以上により総会の議事を終了し、倉賀野隆裕議長が閉会を宣した。

配 布 資 料

1. 令和7年度事業報告書.....	8
2. 令和8年度事業計画.....	43
3. 令和7年度決算報告書.....	58
4. 令和8年度正味財産増減予算書.....	70
5. 監査報告.....	73
6. 一般社団法人 日本透析医学会評議員選出規則の一部改正（案）新旧対照表....	74

令和 7 年度事業報告

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第70回日本透析医学会学術集会・総会は、大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学 教授 猪阪善隆会長が主宰し、2025年6月27日(金)、28日(土)、29日(日)の3日間、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪他を会場として開催した。

今回のテーマは「いのち輝く未来社会の透析医療」を掲げて開催し、参加者は17,608名であった。

<招待講演>

「Cardiovascular Effects of Home Dialysis Therapies」, 「CKD-MBD treatment in dialysis patients: guidelines and developments」

<特別講演>

「多様な個性の力を発揮し、いのち輝く社会へ」, 「医療イノベーション創出におけるアカデミアの役割」, 「アバターと未来医療」, 「生命を捉えなおす～動的平衡の視点から～」, 「透析を止めた日」, 「透析導入期加算を通じた重症化予防の推進と深化した共同意思決定の推進について」

<会長講演>

「いのち輝く未来社会の透析医療を目指して」

<教育講演>

「遠心分離法を用いたヘムアフェレシス」, 「急性血液浄化療法アップデート」, 「新しい尿毒素の定義に基づく血液浄化器の評価」, 「I-HDFの臨床効果を検証する」, 「VA作製の術前評価」, 「バスキュラーアクセス作製の術前評価」, 「エコーガイド下穿刺の基礎から実践」, 「IDHを防ぐ体液量設定方法～多軸的体液管理と透析の安定～」, 「透析アミロイドーシスの診断と治療～整形外科の立場から～」, 「誰でもできるフットケアの実践～足のアセスメントと処置～」, 「透析患者の血糖管理」, 「サイバー攻撃に対するBCP」, 「腎臓リハビリテーションの実際」, 「PDにおける腹膜線維化について(基礎研究)」, 「腹膜透析の血液透析への移行, 併用療法への移行と中止について」, 「腎不全患者における脾または肝同時移植の適応と実際」, 「今後の移植医療のあり方について」, 「免疫学的ハイリスク腎移植の現状と今後の展望」, 「透析患者の悪性腫瘍」, 「HIF-PH阻害薬の

最新アップデート」, 「CKD-MBDの基礎を学ぶ」, 「透析患者の心臓突然死の現状」, 「透析患者の心不全治療の現状と課題」, 「心不全合併透析患者の血行動態管理に役立つ心エコー図検査の見方」, 「中性脂肪蓄積心筋血管症 TGCVにおけるCKDの意義」, 「中性脂肪蓄積心筋血管症 TGCVに対するトリカブリン栄養療法」, 「おいしくリン制限をする食事療法の実践的アプローチ」, 「高齢透析患者特有の食事療法の問題とその対策」, 「腎不全患者の人生を豊かにする生活目標(Life Targets)の実践とその意義」, 「透析医療におけるACP」, 「優しさを伝えるマルチモーダル・ケア技術: ユマニチュード」, 「コーチングマインドで毎日を豊かにする」, 「透析現場におけるキャリア開発ラダーの作り方と活用」, 「看護師の特定行為の実践と課題」, 「透析医療におけるデータサイエンスの実践と展望—標準化から機械学習の臨床応用まで—」, 「医師におけるChatGPTの有効な使い方」, 「「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」に関する留意点」, 「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく安全マネジメントの実践」, 「透析排水の適正管理」

<合同企画シンポジウム>

日本循環器学会・日本透析医学会 合同企画: 透析患者の心血管病治療の実践的アプローチ

日本骨粗鬆症学会・日本透析医学会 合同企画: 透析患者の骨折予防戦略

日本腎臓病薬物療法学会・日本透析医学会 合同企画: 透析患者に対する薬物治療の注意点～薬剤師の視点～

<シンポジウム>

「オンラインHDFの再評価」, 「異種移植～温故知新～」, 「透析患者の冠動脈石灰化結節を識る」, 「腹膜透析の遠隔医療」, 「貧血ガイドライン2024～臨床はどう変わるか?」, 「骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂の意図を読み解く」, 「患者の日常生活の「見える化」～遠隔モニタリング～」, 「AKI診断精度の向上を目指して」, 「透析液組成の将来設計」, 「バスキュラーアクセス長期開存を目指した手術, 管理」, 「サイコネフロロジー診療ガイドと臨床現場での実践」, 「急性腎障害と血液浄化療法の現状と課題」, 「透析患者におけるnephrocardiology(Nephrocardiology in Dialysis Patients)」, 「CKD患者が適切な造影剤検査を受けるための啓発活動」, 「透析患者の弁膜症カテーテル治療の進歩と今後の課題」, 「医療における人工知能研究・実装の最前線」, 「透析患者の脳血管障害～治療の最前線と今後

の課題」,「透析患者における抗凝固薬, 血栓溶解薬の適応を再考する」,「透析患者の末梢動脈疾患の集学的治療」,「災害時透析医療における広域関東圏での行政を含む地域連携」,「もし CKD 患者が大規模災害に遭ったら, どうする? どうなる?」,「HIF-PH 阻害薬のコントロール」,「透析情報標準 HL7 FHIR 規格」,「透析患者総数減少に関する検討, 分析」

<TSN-KSN-JSDT Joint Symposium>

「Dialysis treatment in an aging society」

<ワークショップ>

「在宅血液透析普及に向けて」,「腎代替療法を受けている患者さんの声を聴く」,「新生児・小児から移行期までの透析医療の現在地」,「透析装置洗浄消毒・透析液清浄化の諸問題」,「バスキュラーアクセス治療の最新動向」,「次世代につなぐ! VA 関連手技をこう教えている」,「【Japan Endovascular Treatment Conference (JET) 合同企画】LIVE 動画から学ぶ! VAIVT 手技のコツ」,「シャント関連疼痛をどうやって見分け, どうやって痛みを軽減している! ?」,「どうやってる! ? VA 管理」,「VA 看護の現状とこれから」,「透析時運動指導等加算がもたらした透析医療の変革」,「血液浄化における CE 業務の展望」,「透析患者のビタミン・微量元素」,「腹膜透析推進に向けた取り組み」,「血液浄化における多職種連携を考える」,「サルコペニアをめぐる疑問」,「腹膜透析患者の地域連携推進のための取り組み」,「私の栄養療法外来～これが私の指導法です」,「私の施設の PD 診療～PD の始め方, 終わり方」,「未来へ繋ぐ腎移植～移植医療を始めませんか～: 腎移植若手の会共催企画」,「腎移植後管理～こんな時どうしますか?～」,「今あらためて塩分について考える」,「アフレスシスが切り開く未来」,「腎代替療法における DX」,「全ての腎不全患者に届ける SDGs な腎移植を目指して」,「血液浄化における高齢者看護」,「腎不全患者への支援を考える」,「腎臓病・透析患者のプレコンセプションケア」,「若手研究者と考える臨床研究キャリアパス」,「私の骨粗鬆症外来～プラクティスパターン開陳します」,「透析患者の骨をめぐる疑問」

<学会・委員会企画>

腎不全総合対策委員会企画: 地域を踏まえた腎不全対策を考える

学術委員会企画: year in review 2024

感染対策委員会企画: 透析患者におけるワクチン接種と感染症の予防戦略

保険委員会企画: 令和 8 年度改定に向けて保険委員

会の取り組み

統計調査委員会企画: JSDT 統計調査データを用いた臨床研究

感染対策委員会企画: バスキュラーアクセス/ペリトネアルアクセスと感染予防

男女共同参画推進委員会企画: TSUBASA PROJECT

危機管理委員会(災害対策小委員会)企画: 透析療法災害対策における広域・行政との連携(Collaboration with Regional and Administrative Authorities in Disaster Management for Dialysis Therapy)

学術委員会(栄養問題検討ワーキンググループ)企画: 透析患者の栄養状態を解明する—SUDACHI study—

学術委員会(血液浄化に関する新技術検討小委員会)企画: 新技術で貢献するいのち輝く次世代人工腎臓治療への挑戦

危機管理委員会(医療安全小委員会)企画: 透析医療における医療安全のための提言

学術委員会(末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会)企画: 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言

学術委員会 ウロキナーゼ供給困難下における VA 血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ: ウロキナーゼ非供給による透析医療への影響, そしてその対策

学術委員会(血液浄化の機能と効率に関する委員会)企画: 血液浄化器(中空糸型)機能分類の改訂に向けて

学術委員会(栄養問題検討ワーキンググループ)企画: CKD 保存期から透析まで一貫した食事療法
統計調査委員会企画: WADDA システムをどう使いこなすか

専門医制度委員会企画: 転換期を迎える日本専門医機構と透析医学会

学術委員会(バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ)企画: 慢性血液透析用バスキュラーアクセスの作製および修復に関するガイドラインの追補版作成の進捗状況

学術委員会(医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会)企画: 医師の働き方改革やタスク シェアリングの発展のための課題

国際学術交流委員会企画: Newest renal registry data of end stage renal disease of every country in Asia

国際学術交流委員会企画: Problems in the selection

and treatment of renal replacement therapy

<よくわかるシリーズ>

「血液浄化機の機能と選択」, 「血漿交換～アルブミン置換液の組成を中心に～」, 「AKIに対する血液浄化療法 up date」, 「日本における看護 DX (デジタルトランスフォーメーション)」, 「医療従事者のための AI 基礎知識～人工知能の仕組みから医療応用まで～」, 「カフ型カテーテル」, 「無敵の中心静脈カテーテル挿入手技」, 「ガイドライン, エビデンスから PD 関連感染症症例を考える」, 「小児の腹膜透析」, 「新人スタッフの個性を活かす教育」, 「腹膜透析処方の方考え方」, 「腹膜透析排液異常の鑑別と対応」, 「やってみよう! 経皮的腹膜透析カテーテル挿入術」, 「腹膜透析患者の合併症」, 「透析患者の心房細動に対する抗凝固療法をどうするか」, 「今求められる透析患者の栄養管理・栄養指導」, 「CKD-MBD (慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常) (リン低下薬)」, 「腎移植レシピエントの感染症」, 「腎移植のこと～しっかりサポートするために～」, 「貧血治療～目標 Hb に達しない時の考え方～」, 「慢性透析患者における低栄養の評価と栄養介入の重要性」, 「透析患者の至適血圧」, 「生体腎ドナーを生涯にわたり守るために」, 「透析患者の皮膚病変とスキンケア」, 「腎臓リハビリテーションの現状と今後」, 「診察所見と症状からどう読み取る?」, 「透析室における感染対策」, 「Up-to-date apheresis」, 「シャントエコーの基本」, 「ビリーブメントカンファレンスの実際と意義」, 「医療連携を進めるために看護師ができること」, 「高齢腎不全患者の生き方に寄り添う看護」

<企業共催シンポジウム>

「日本における PD の到達点へのプロセス～安定した PD の継続を再考する～」, 「透析患者の Ca 管理を再考する」, 「カルシウム, リン, PTH 管理の最前線 ～心血管・骨折リスク低減をめざした個別化医療～」, 「CKD・透析患者の腸内環境への治療介入 (腸腎連関・心腎連関を考慮して)」, 「日本人の特性を考慮した透析患者の高リン血症治療戦略」, 「現代の治療に応じた透析アミロイドシス治療～患者 QOL 向上を目指した集学的治療～」, 「みんなで考えるストレスフリー穿刺～患者のための医療の提供を目指して～」, 「日本人のエビデンスから見る腎性貧血治療」, 「医療者・患者・患者家族にとって, より良い治療法の実践～メリットを適切に提供・享受するために～」, 「DOPPS シンポジウム」

<ハンズオンセミナー>

「血管吻合ハンズオンセミナー」, 「エコーガイド

下穿刺ハンズオンセミナー」

<その他>

医療安全講習会 教育講演 18

「「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」に関する留意点」

医療倫理講習会 教育講演 19

「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく安全マネジメントの実践」

感染対策講習会 教育講演 20「透析排水の適正管理」

2025 年 7 月 1 日 (火) 正午～7 月 31 日 (木) 23:59 まで (会期後オンデマンド配信)

日本透析医学会認定 透析液水質確保に関する研修 ※全てオンデマンド配信

2) 通常総会・臨時総会

(1) 第 70 回通常総会開催: 2025 年 6 月 26 日 (木) 16:00～17:30

(2) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催: 2025 年 6 月 28 日 (土)

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催: 2025 年 6 月 13 日・6 月 26 日・12 月 12 日・2026 年 3 月 26 日

(2) 監事による監査会開催: 2025 年 5 月 13 日 (火)

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しないこととした。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しないこととした。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会 (脇野 修委員長)

学会ホームページの円滑な運営、内容の充実化において、学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会 (酒井 謙委員長)

慢性腎臓病療養指導看護師・腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師制度・日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成 (CKD 分野) に関しては、本年度問題提起されず活動を行わなかった。

腎代替療法専門指導士については、日本腎代替療法医療専門職推進協会と連携を取り、各透析医療専門職が指導士資格取得できるよう努めた。特に本年は、e-ラーニングの受講単位減免につい

- て、管理栄養士、薬剤師、腎臓病療養指導士（各3, 3, 6単位減免）について、減免措置が決定した。また新たな各透析医療専門職として、認定サイコネフロロジー公認心理師（日本サイコネフロロジー学会）が指導士資格を取得できるように決定された。
- (3) 統計調査のあり方小委員長（友 雅司委員長）
- ① 統計調査データの WEB 収集及び EDC (electric data capture) システムに関わる調査を行った。
 - ② EDC 推進検討ワーキンググループと共同して EDC の導入を検討した。
- (4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）
- ① 委員会は、オンラインで実施した。
 - ② 昨年に引き続き、第70回日本透析医学会学術集会・総会（令和7年6月、大阪市）に合わせて対面式研修を実施した。対象はベトナムからの4名、カンボジアからの1名とした。3日間学会に参加したのち、大阪市～奈良市の3施設での研修を予定していたが、受け入れ側の都合で直前に1施設を中止、急遽、他の1施設を追加する措置を講じた。関係各位に感謝申し上げる。
 - ③ 来年度は第71回日本透析医学会学術集会・総会（令和8年6月、神戸市）の開催に合わせて、ラオスから3名、モンゴルから2名の計5名を対象に研修を実施することを取り決め、10月以降、その準備を開始した。
- (5) 本学会のあり方小委員会（友 雅司委員長）
- ① 公益法人移行に関しては、今後も継続審議していくこととした。
- (6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）
- ① 第70回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演を収録し、会員専用ページ MyWeb にアップし、専門医は単位取得できるようにした。また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。
 - ② 運用については、ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し、本学会の会員（正会員、施設会員、賛助会員）へ周知した。
 - ③ 単位の認定に関しては、出題された5問全てに正解することとし、全門正解するまで何度も冒頭に繰り返し視聴できるようにした。
- (7) 書籍発行運営委員会（小川智也委員長）
- ① 日本透析医学会ブックシリーズの出版書籍として、「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」を6月に出版した。
- (8) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）
- 2025年度は日本透析医学会、台湾腎臓医学会、韓国腎臓学会の覚書に則して、3学会の年次学術大会を下記の通り開催した。
- ① 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月28日開催、日本、大阪）
テーマ：「Dialysis treatment in an aging society」
- (1) 座長：
1. Yoshitaka Isaka (Osaka University Graduate School of Medicine) 日本
 2. I-wen Wu (Taipei Medical University) 台湾
 3. Hyeong-Cheon Park (Gangnam Severance Hospital, Yonsei University College of Medicine) 韓国
- (2) 演者：
1. Yoshiaki Takemoto (Osaka Metropolitan University Hospital) 日本
Dialysis Treatment in an Aging Society -Japanese Situation-
 2. Yen-Ling Chiu (Far Eastern Memorial Hospital) 台湾
Dialysis Treatment in Elderly Patients in Taiwan -Current trends and Challenges-
 3. Jae Won Yang (Yonsei University Wonju College of Medicine) 韓国
Recommendation of target blood pressure in elderly CKD patients with hypertension
- ② 韓国腎臓学会開催（2025年6月21日開催、韓国、ソウル）
テーマ：「Shared Decision-Making for ESKD Patients in Asia」
- (1) 座長：
1. Dae Eun Choi (Chungnam National University Hospital) 韓国
 2. Tadashi Tomo (Oita University) 日本
 3. Yung-Ho Hsu (Taipei Medical University) 台湾

(2) 演者：

1. Sejoong Kim (Seoul National University Bundang Hospital) 韓国
Topic: How Did Korea Approach Shared Decision-Making for Dialysis Patients?
2. Yasuhiro Komatsu (Gunma University) 日本
Topic: Japan's Approach to Shared Decision-Making in Dialysis
3. Yi-Wen Chiu (Kaohsiung Medical University Hospital) 台湾
Topic: Shared Decision-Making in Dialysis: The Taiwan Experience

③ 台湾腎臓医学会 APCN との合同開催 (2025 年 12 月 5～7 日, 台湾, 台北)

台湾, 韓国, 本学会 3 学会シンポジウムは施行されず。

(9) VA 血管内治療認定医制度委員会 (深澤瑞也委員長)

1) 昨年度の VA 血管内治療認定医制度委員会の認定作業時に生じた様々な事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に本年度の申請に関する修正点をまとめ公表した。また申請者にわかりやすいように Q&A スタイルでまとめ、ホームページ上に公表した。手術記録にあたっては医療法施行規則に準じての記載を必須とした。また個人情報保護法の遵守のため、本年は症例報告提出の際に、患者氏名、生年月日が消去あるいは容易には確認できない状態にして提出を指示した。

2) 申請作業は構築した申請システムを用いて、昨年同様の秋からの申請、その後の審査を委員に依頼し判定を行った。生じた疑義に関しては新しい判定基準に基づき再審査し、最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行った。

結果は理事会に報告し最終決定とし、本人に対して結果発表を行った。

不合格者には、不合格理由を記した書面を交付した。認定証の交付は、4 月 1 日付けで交付。結果に対する異議がある場合には異議申し立てを行うこととし、規定の期限内に申し立てを受けることとした。

また本年度の申請においても、生じた問題点、疑義解釈に対しては、昨年度同様に翌年度以降の委員会への申し送りを行った。

(10) 医療 DX 推進小委員会 (菊地 勘委員長)

- 1) 2025 年度 第 1 回 医療 DX 推進小委員会の開催
日時: 2025 年 8 月 6 日 (水) 17:00～17:45
場所: WEB 会議

出席者 委員: 菊地 勘, 阿部雅紀,

井上朋子, 岩藤和広, 長沼俊秀,

長谷川毅, 宮崎真理子

外部委員: 岡田美保子

オブザーバー:

厚生労働省医政局医療情報担当参事官室 室長 新畑覚也, 医療情報担当参事官室担当者 MT JAPAN (日本医療機器テクノロジー協会) 透析情報の標準規格開発ワーキンググループ

主査 岡谷紀和, 副主査 青島正浩

会議内容: 医療 DX 推進小委員会を設置した経緯と今後の活動について

委員長 菊地 勘より医療 DX について以下の説明が行われた。

- ・既存部分である電子レセプト情報を用いた診療/薬剤情報や特定健診等情報を医療機関での閲覧について
- ・新規部分である電子カルテ情報共有サービス, 標準型電子カルテについて
- ・令和 4 年度厚生労働省行政推進調査事業「透析情報の標準規格開発並びに透析診療施設間の連携を支援する標準化に関する研究」のこれまでの活動について
- ・透析情報標準 HL7 FHIR 記述仕様策定の経緯と厚生労働省標準規格「透析情報標準 HL7 FHIR 記述仕様」の認定について
- ・透析医療 DX を推進する意義について
- ・透析情報標準 HL7 FHIR 記述仕様 Ver. 1.03 について
- ・今後の医療 DX の展開と委員会の活動方針について

2) 医療 DX 推進小委員会と MT JAPAN の打ち合わせ

厚生労働省標準規格「透析情報標準 HL7 FHIR 記述仕様」追加項目の事前協議と整理

日時: 2025 年 12 月 18 日 (木) 15:00～17:30

場所: 下落合クリニック 会議室

参加者: 医療 DX 推進小委員会委員長 菊地 勘, 外部委員 岡田美保子

MT JAPAN 岡谷紀和, 青島正浩

会議内容: ① データ保存基盤について

- ② データ連携フローについて
- ③ データ参照方法について
- ④ 標準化マスターについて

- 3) 第7回 NeXEHRs シンポジウム～救急・災害時医療を支える PHR と電子カルテ～での講演
医療機関（含む大学病院）、企業、研究機関、自治体・行政、大学、団体など約 200 名を対象とした医療 DX に関するシンポジウムで講演を行った。

日時：2025 年 12 月 2 日（火）13：30～15：30
場所：GLOBAL LIFESCIENCE HUB カンファレンスルーム（日本橋）

演題：透析医療の未来を支える DX～災害に強い医療体制の構築を目指して～

日本透析医学会 理事（医療 DX 推進小委員会委員長）・下落合クリニック 院長 菊地 勘

- 4) 救急領域での PHR(Personal Health Record)・電子カルテ情報連携に関する AMED との会議
日時：2026 年 3 月 4 日（水）14：30～15：30
場所：Zoom 会議

出席者：菊地 勘、横川裕大（東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野助教）、AMED 関連スタッフ

会議内容：① 透析医療における医療 DX の現状と災害時透析医療への活用について

- ② 透析情報を PHR に適用していくために必要な情報と可能性について

- 5) 厚生労働省医政局医療情報担当参事官室の担当交代と今後の方向性についての会議
日時：2026 年 3 月 27 日（金）10：00～
場所：Microsoft Teams 会議

出席者：医療 DX 推進小委員会 菊地 勘
厚生労働省医政局医療情報担当参事官室
前室長 新畑覚也（2026 年 3 月 31 日まで）
新室長 長嶺由衣子（2026 年 4 月 1 日から）
会議内容：参事官室室長が交代となった。

新たな室長のもと、医療 DX 推進小委員会とは、必要時に情報共有を行いながら、透析医療 DX を進めていくことが確認された。2026 年度に医療 DX 推進小委員会が行う、透析施設における医療 DX の現況に関するアンケートの結果は共有する。

2026 年の日本透析医学会学術集会・総会の委員会企画の演者は、新畑覚也室長から長

嶺由衣子室長に変更となる。

2. 財務委員会

2025 年度事業として、日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また、各事業に対して経費節減を心がけ、2026 年度予算を作成した。

3. 編集委員会

- 1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 57 巻をもって冊子体の発行を終了し、58 巻 1 号（2025 年 1 月 28 日発行）より、科学技術振興機構が運営する論文プラットフォーム、J-STAGE による電子版のみでの発行となった。

- (2) 日本透析医学会雑誌を毎月 1 号、年間 12 号を J-STAGE にて公開した。

- (3) 第 70 回学術集会・総会特別号（抄録集・Supplement）を学会ホームページの抄録アーカイブサイトにて公開した。

- (4) 委員会報告として以下の 5 編を掲載した。
58 巻 7 号「統計調査委員会報告：2022 年末値分析訂正と 2023 年末の透析有病率・罹患率・死亡率についての分析」

58 巻 7 号「男女共同参画推進委員会報告：2023 年度透析専門医勤務状況—透析療法領域における男女共同参画実態調査—」

58 巻 8 号「学術委員会報告：血液浄化器（中空糸型）の機能分類 2025」

58 巻 9 号「危機管理委員会報告：地域における災害時透析医療確保の取り組み」

59 巻 3 号「危機管理委員会報告：次亜塩素酸ナトリウム溶液と酸性溶液の誤混入による塩素ガス発生事故に関する全国透析施設の実態調査報告」

- (5) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況（2024 年 12 月 31 日現在）」を 58 巻 12 号に掲載した。

- (6) 学術委員会の「Dialysis Therapy, 2024 year in review」を 58 巻 12 号に掲載した。

- (7) 2025 年度の掲載論文数は、原著 19 編、総説 2 編、症例報告 25 編、その他（短報、透析看護・技術、研究速報、ガイドライン・委員会報告、Letter to editor など）12 編の計 58 編の掲載であった。

2) 公式欧文誌「Renal Replacement Therapy」(RRT)について

- (1) 引き続きオンラインの Open Access Journal (著作権は CC-BY) として発行した。
- (2) Scopus, DOAJ, Web of Science などの主要な Abstract & Indexing サイトに掲載されている。
- (3) 2025 年 6 月に Journal Citation Reports (JCR) の Impact Factor 1.0 が付与された。
- (4) PMC (PubMed Central) への掲載再申請を行うため、準備を進めている。2026 年 4 月以降再申請予定。
- (5) MEDLINE については、MEDLINE のポリシーにより、過去 2 年以内に PMC に reject されたジャーナルは申請できないこととなっているため、未申請の状態である。
- (6) 2025 年 1 月～2025 年 12 月は 299 編の論文投稿があった (2024 年の 254 編から 15% 増)。掲載論文数は 101 編であった (2024 年の 77 編から 24% 増)。
- (7) 2025 年 1 月～2025 年 12 月までの集計では、論文採択率は 31% であった (2024 年は 33%)。
- (8) 2025 年 1 月～2025 年 12 月までの集計では、わが国を含む世界 33 カ国からの投稿があった (2024 年は 40 カ国)。
- (9) 2024 年 10 月 15 日に査読投稿システムが Snapp に変更された。EM で審査中の論文は最終判定が出揃い、現在は論文審査はすべて Snapp で行われている。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

2025 年度学会賞 (木本賞)・奨励賞の候補論文の選考学術委員の投票で候補論文を official journal『日本透析医学会雑誌』57 巻 (2024 年発行) と Renal Replacement Therapy (RRT) Vol.10 2025 の中から合計 10 編の候補論文を選定した。4 月 5 日までに評議員に 10 編の中から推薦論文 2 編 (1 位, 2 位) を選出し、その集計結果と、別に募集した公募論文 (7 編) の中から 2025 年 4 月 11 日の学術委員会で、木本賞と奨励賞を選出した。評議員投票で得票の多かった阿部雅紀先生の論文を木本賞、学術委員会委員から得票の多かった蘇原映誠先生の論文を木本賞、奨励賞には神谷圭介先生の論文の計 3 編とすることで、全会一致で了承された。受賞論文は、第 70 回日本透析医学会学術集会・総会で発表し表彰し

た。2026 年度学会賞 (木本賞)・奨励賞の候補論文の選考を 2025 年 1 月 26 日に開始した。

2) 学術委員会活動 (ガイドライン, 提言等の作成, 広報活動) 等に関する協議

以下の学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行した。

3) 栄養問題検討ワーキンググループ (神田英一郎グループ長)

課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査 (SUDACHI STUDY)

慢性透析患者の栄養素摂取量および予後の関係を評価するため、大塚製薬工場との多施設共同前向きコホート研究 (SUDACHI STUDY) を継続している。研究代表者は脇野 修学術委員会委員長, Steering committee は日本透析医学会栄養問題ワーキンググループである。ベースラインデータの解析を開始した。

また、これまで得られたデータの解析結果を、第 70 回日本透析医学会学術集会・総会にて、学会・委員会企画 9「透析患者の栄養状態を解明する -SUDACHI study-」として発表した。

4) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ (倉賀野隆裕グループ長)

「慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン」について原案を作成し、外部評価委員会に提出し、修正を加えた。2026 年 3 月に開催された理事会に原案を提出した。

5) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ (脇野 修グループ長)

2024 年度からの引継ぎ事案として、本ガイドラインの 3 に関しては「改訂案承認の前提としてガイドライン採用論文において研究デザインに関する correction の提出とその雑誌への掲載が必要」と 2 月 1 日理事会で結論された。同時に 2025 年 3 月 18 日「コホート研究における Prospective・Retrospective の判断と JRDR データの位置づけについて」が理事長より声明された。2025 年度はこれらの理事会審議結果、理事長声明について、委員会で真摯に対応を開始した。journal への correction 申請およびその掲載に時間がかかったが、根気よくかつ適切に修正が加えられた。そして最終改訂案を 2025 年 9 月 10 日、再度、「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン (2025 年改訂版) のパブコメに関する委員会」「JRDR の検証委員会」の 2 臨時委員会委

員、顧問、理事に回覧し、最終的に、関連学会（日本腎臓学会、日本小児腎臓病学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本CKD-MBD学会、日本臨床腎移植学会）の協力も得て、最終文言となった。この最終案が2025年12月12日2025年度第3回理事会で承認された。この結果を受け12月26日慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン（2025年改訂版）がホームページ上に掲載された。さらに日本透析医学会雑誌に投稿し、2026年度の4号発行に4月28日掲載予定となった。

6) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ（阿部雅紀グループ長）

2025年の日本透析医学会学術集会・総会にて、「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」が日本透析医学会ブックシリーズ2として発刊された。英文としてRenal Replacement Therapy誌への掲載に向け、校正作業を行った。

7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

シャント系、カフ型カテーテルの使用に関する追補に関して、グループ内に2つの班を作り素案を作成中。

8) ウロキナーゼ供給困難下におけるVA血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

血栓溶解剤ウロキナーゼ（UK）の出荷停止に伴うVA血栓性閉塞に対する治療法に関して、招集されたワーキンググループ。まずは関連学会の協力も仰ぎ、UK使用困難な状況下での会員の対応策をアンケート調査した。日本透析医学会誌にまずはアンケート結果を2025年1月号、その後シャント、カテーテルの治療に対する文献検索を2025年2月号に掲載した。UK使用困難に伴い再建術などの増加があり、長期間の安定したHDのために危惧される内容となっている。シャント系血栓性閉塞に関してはウロキナーゼの代替薬となり得る（海外のガイドラインでは使用法が掲載されている）t-PAの本邦への導入を目指して現在厚生労働省との面談を重ねている状況であるが、本邦への原末の輸入量に制限があり販売社からは本来の適応である脳梗塞等の治療に支障をきたす可能性もありうるためにVA閉塞への使用は避けてほしいとの要望もあり、進展が乏しい状況。また血栓吸引デバイスに関しては販売社（導入検討していたある製品）による本邦への導入はコストが見合わないために見送りとの報告あり、こちらも停止している。

このようなことから本ワーキンググループは終了とし、適切な委員会での厚生労働省との折衝の継続を行う方針。

9) 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会（酒井 謙委員長）

提言作成委員会は、第69回日本透析医学会学術集会・総会において、第1回のOfficialな会議を経て、構成メンバーの拡充に努め、現在まで第17回の議事（各方面の30余名の委員からなる）が進行した。第70回日本透析医学会学術集会・総会にて、提言の総論部分（下記1～5）が示された。

日本透析医学会では、2014年に「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」で、「維持血液透析の見合わせ」について検討する状態を示した。さらに2020年には、「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」を学会として社会に公表し、SDM、ACPに加え、CKMの概念は、腎臓内科医、透析医のみならず、一般社会にも広まってきた。CKMの自己意思決定に関するプロセスは、この第2回の提言に盛り込まれ、英文誌（RRT）にも掲載された。このような状況下、2025年9月には、日本緩和医療学会、日本腎臓学会、日本透析医学会の3学会による「腎不全患者のための緩和ケアガイダンス」が公表された。

今回この委員会においては、CKMの技術的な問題、わが国の世界における立ち位置、地域社会的問題、緩和透析、法制度的問題、EOLケアまでを、根拠をもって明らかにし、わが国における腎不全医療における緩和ケアの位置づけと方法論を明確にする。

【主な討議内容】

1. 本邦における社会的な問題点（医療倫理）
2. 本邦における法律上の問題点（自殺ほう助、自殺教唆）
3. 生存権 患者の権利、認知症患者の生存権
4. CKMの腎不全医療における位置付け
5. 腎代替療法との比較（4つの選択肢と並立可否か）、説明時期
6. 医療とケアの問題点
7. 薬物療法
8. 非薬物療法
9. 精神・心理・霊的療法など
10. 緩和透析
11. 在宅への移行 在宅医療の実際
12. 小児、グリーフケア

【診療報酬】なお、緩和ケア病棟への入院、一般病棟入院患者への緩和ケアチームによ

る診療加算、在宅医療での麻薬使用に関する診療報酬等に関しては、R8保険収載改定を待つことになっているため、今後の文言作成に留意する。

10) 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会（平和伸仁委員長）

令和7年4月11日に学術委員会委員長とコアメンバーによる方針を検討。同8月28日に令和7年度第1回会議を開催。2025年末の統計調査委員会への依頼事項、血圧管理に関するCQの作成方法、家庭血圧前向きコホートに関する検討、後ろ向き研究の可能性、血圧管理に関する指標の必要性などを検討した。また、第71回日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画案を検討した。統計に関する視点から福島県立医科大学 栗田宜明教授を新メンバーに招聘することが決定した。令和7年10月30日第2回会議を開催。血圧管理に関するCQについて評議員に対してアンケートをすることを決定。前向きコホート作成に関する課題、後ろ向き研究に関する可能性を検討・共有。第71回日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画案を確定した。令和7年12月25日第3回会議を開催。血圧管理に関するCQ案に対するアンケート結果を5つのグループに分けて検討。まとめを発表するとともに、課題と今後のすすめかたを検討。令和8年2月26日第4回会議を開催。CQ作成に対する課題を検討。確定すべき定義、エビデンスがある程度確認できる課題の検討、日本透析医学会学術集会・総会に向けた会員への協力要請、統計調査資料研究に関する準備、前向きコホート研究の具体案や方針を検討した。

11) Green Dialysisに関する検討委員会（脇野 修委員長）

2026年4月28日（月）第1回合同 Green Dialysisに関する検討委員会が開催された。テーマを7つにわけ、それを2つの班に分けて議論することが提案された。すなわちA班は透析機械、廃棄物処理、水利用、電気利用、B班は薬剤（栄養療法も含む）、患者移動、その他の人的、経済的浪費とA班は主に医工系、B班は主に医薬系の内容について協議するものと分担案が提案された。そのうえでA班は友委員、B班は脇野委員長が班長として活動することが提案され、了承された。2027年の第72回日本透析医学会学術集会・総会を提言の目標に置き、その間学術集会・総会も含め、年3～4回の委員会を行い提言（案）をまとめていくこととなった。脇野班はその後第2回7月8日、第3回11月25日、友班は第

2回7月7日、第3回9月28日、第4回11月28日班会議が開催され、議論すべき内容について話し合われ、提言の章立ての素案に関し議論がなされた。2班の活動で、提言の章立ておよび執筆者が以下のように決定された（敬称略）。

はじめに、緒言（友）、本提言の意義（脇野）

第1章 総論—Green Nephrology/Dialysisに関する基本事項—

世界におけるGreen Dialysis（川西）、Green Dialysisから見た慢性腎臓病医療と腎代替療法（脇野、古久保）、CFPとwater footprint 水利用からみたGreen Dialysis（山下）、Green Dialysisの論ずる範囲—輸入、製造ラインとそのコスト—（久野）

第2章 血液透析におけるGreen Dialysis

廃棄物（川西、水口 斉、番匠谷、久野）、透析排水（友、峰島、長沼）、製品（機械と消耗品、輸送）（今井、甲、武本）、血液透析（透析に関わる水・電力等）（山下、水口 潤、本間、小川）

第3章 腹膜透析におけるGreen Dialysis

PD液処方改革（主：鷺田、古久保、副：小岩、竹内）、PD液保存（主：浦田、山下）、PD医療DX（主：金子、鷺田）、PD製造システム（主：高木、小岩、副：山下、金津）、PD液ロジスティックス（主：金津、山下、副：金子、高木）、PD薬事法規（主：山下、副：脇野）

第4章 透析医療における薬剤に関するGreen Dialysis

処方改革（主：小岩、竹内、永野）、薬剤保存（主：竹内、脇野）、医薬連携（主：甲田、古久保、永野、副：浦田）、医療DX（主：久野、竹内、副：鷺田）、薬剤製造（主：磯部、副：脇野）、薬事法規（主：竹内、副：脇野）

各章構成は提言、要約、解説、文献となり、できればCFPのデータを組み込み、学術文献だけでなく、実践例などを紹介してもらうこととした。本案は2026年3月1日に開催された第2回合同 Green Dialysisに関する検討委員会で承認された。この第2回合同委員会ではマイルストーンの紹介がなされ、6月の日本透析医学会学術集会・総会で全員の会合、8月半ばの一時的な完成、JSPDでの発表、2026年12月から2027年3月までの関係学会での査読を行い内容の調節を行い、2027年5月27日からの総会で発表されることが、報告された。各班の委員会は5月に1回行う予定を考えている。日本透析医会に日本透析医学会の提言を査読していただくこと、患者会への査読依頼は控えたほうが良いという意見が出された。ある程度まとまった形で日本透析

医会や関係団体に査読をお願いすべきであるという方向となった。

12) 小委員会活動

(1) 学術委員会 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

1. 2015年から開催している Dialysis therapy, year in review 2024 を第 70 回日本透析医学会学術集会・総会（2025 年 6 月 27 日）において委員会企画として開催した。

司会：脇野 修（徳島大学），小岩文彦（昭和大学藤が丘病院）

- 1) HD, HDF 小川智也（埼玉医科大学），2) バスキュラーアクセス 水口 斉（防衛医科大学），3) 腹膜透析 伊藤恭彦（愛知医科大学），4) 感染症 菊地 勘（下落合クリニック），5) 肺高血圧症，バスキュラーアクセスと心疾患 藤崎毅一郎（飯塚病院），6) 栄養 神田英一郎（川崎医科大学），7) 貧血 倉賀野隆裕（兵庫医科大学），8) CKD-MBD 新潟大学（山本卓），9) 糖尿病 阿部雅紀（日本大学）

2. 各演者の先生に Dialysis Therapy, 2024 year in review の発表内容を原稿にして透析会誌に投稿を依頼して 58 巻 12 号に掲載した。

(2) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

1. 臨床系 4 委員，工学系 4 委員で，委員会活動を継続した。
2. 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会（令和 7 年 6 月）では，委員会企画「新技術で貢献するいのち輝く次世代人工腎臓治療への挑戦」で各委員の研究成果を公表した。例年を遥かに超える聴衆から好評を得た。
3. 第 34 回日本次世代人工腎臓研究会（令和 7 年 10 月），第 5 回日本腎・血液浄化 AI 学会（同 10 月），第 63 回日本人工臓器学会（同 11 月），第 9 回 I-HDF 研究会（同 12 月）においても一部の委員が小委員会での検討結果を公表した。

(3) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）

- ① 日本透析医学会，日本透析医会，JACE（日本臨床工学技士会）との 3 団体共同「透析排液管理ワーキンググループ（峰島三千男グループ長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行った。
- ② ISO・IEC 対策ワーキンググループ（川西秀樹グループ長）：日本の見解を反映させるべく，

日本医療機器テクノロジー協会(MTJAPAN)，日本臨床工学技士会と協力して，ISO・IEC 会議に委員を派遣し討議を行った。

- ③ 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会にて，学術委員会：血液浄化の機能と効率に関する委員会企画「血液浄化器（中空糸型）機能分類の改訂に向けて」を開催し，「血液透析膜 ダイアライザの S 型の認定に向けて」等について議論を行った。

- ④ 「学術委員会報告：血液浄化器（中空糸型）の機能分類 2025」を透析会誌に発表した。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（鷺田直輝委員長）

① 体験参加型セッションの開催

- ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催

- ① については，2025 年度は第 31 回日本腹膜透析医学会学術集会にて，腹膜透析タスクシェアのための教育法を考える「日本全国各施設での PD の実際とチーム医療」（医師・スタッフ教育体験参加型セッション）として，全国の医科大学 6 校が参加して開催され，現状の課題が浮き彫りになった。
- ② については，2025 年度の第 70 回日本透析医学会学術集会・総会において，委員会企画として，セッションタイトル「医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題」というセミナーを開催した。現状の課題が山積している現状を把握し，2026 年度の第 71 回日本透析医学会学術集会・総会でも同様のセッションを企画し，具体的な改革案を検討する予定である。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）

令和 7 年度の研究助成 2 件，花岡吾子（大阪公立大学医学部附属病院医療機器部・臨床工学技士）「人工知能（Artificial Intelligence：AI）を用いたシャント音からのバスキュラーアクセス不全の診断」および西海 創（川崎医科大学総合医療センター ME センター・臨床工学技士）「超音波エコーと機械学習を活用した持続的腎代替療法回路の凝血トラブル予測手法の開発」を第 69 回日本透析医学会学術集会・総会で表彰した。令和 8 年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請受付を行ったところ 10 件の申請があった。2 月 10 日から開始した 5 名の委員の先生による審査の結果，千葉裕基（北海道大学病院臨床工学技士），中井浩司（中部大学生命健康科学部臨床工学科・臨床工学技士），小野淳一（川崎医療福

社大学医療技術学部臨床工学科・臨床工学技士)の3名の研究、計3件に助成することを4月8日決定した。

(6) 透析医学用語集作成小委員会(脇野 修委員長)

2026年1月13日2025年度日本医学会分科会用語委員会が開催され、参加した。ICD-10からICD-11への変更作業の進捗が報告された。各学会に依頼が来ると連絡を受け、対応していく。

5. 統計調査委員会

1) 2024年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告

①「わが国の慢性透析療法の現況(2024年12月31日現在)」を日本透析医学会雑誌58巻12号に掲載し、学会ホームページの「わが国の慢性透析療法の現況」ページに上記報告のPDFと図表のPPTファイルも掲載した。

②「わが国の慢性透析療法の現況(2024年12月31日現在CD-ROM版)」は調査協力非会員施設への郵送を廃止し、学会ホームページの統計調査専用サイトに掲載した(施設会員は学会ホームページ会員専用ページと統計調査専用サイトの両方で閲覧可能)。

③上記現況報告の英文化・RRT誌への投稿作業中である。

④2024年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム(自動集計、研究データ切出し)に取り込み、学会ホームページの会員専用ページでWADDAシステム(自動集計)の2024年版を公開した。

2)「わが国の慢性透析療法の現況(2022年12月31日現在)」をAnnual Dialysis Data Report 2022, JSDT Renal Data Registry(JRDR)として、Renal Replacement Therapy(2024) Article number: 11: 54(2025), doi.org/10.1186/s41100-025-00646-3として掲載した。

3) 2025年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施

①2025年の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後UMINに公開した。

②統計調査入力用ファイルのダウンロード・アップロードシステムを運用しているが、希望する施設にはファイルを収めたUSBの郵送も行った。EDCシステムについては引き続き検討課題とした。

③全国の透析施設に対して2024年末わが国の慢性

透析療法の現況調査を実施した。

VAアクセス等の新規調査を行った。

④2026年4月1日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。

4) WADDAシステム、学術研究用データ切出しシステムの改善

①学術研究用データ切出しシステムについて、2012年データの再取込を行った。

5) 統計調査管理台帳システムの改善

①統計調査ファイルのダウンロード・アップロードシステム導入に伴う統計調査管理台帳システムの改修を行った。

6) EDC(Electronic Data Capture)について引き続き検討課題とした。

7) 第70回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。

①統計調査委員会企画「WADDAシステムをどう使いこなすか」JSDT統計調査データを用いた臨床研究

8) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化

①学術委員会等他委員会と協力の上、JRDRデータベースの解析、論文化を解析小委員会中心に行った。

②2025年はJRDRを用いた研究結果、英文4編、和文1編が掲載された。

9) 統計調査結果のホームページの充実

①JRDRの調査結果を広く海外に発信するために、英語版ホームページの充実に努めた。

10) 国内・国際協力の推進

(1) 米国腎臓データシステム(USRDS)に対して、データ提供を行った。

(2) 国際腎臓学会(ISN)主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトであるSharE-RRへの参加を行い、Web会議で意見を交換した。

統計解析小委員会

(1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。

(2) JRDRを用いた研究計画および他団体・他学会から申請のあった研究計画について審議した。

地域協力小委員会

(1) 2025年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話やFAXによる督促を行った。

6. 専門医制度委員会

1) 令和7年度 第36回専門医認定試験結果に関する件 2025年度 専門医認定申請書類審査について

2025年度第36回専門医新規申請者309名であった。受験者は294名（前年比+27名）症例要約審査員42名、口頭試問を16試験室（各2名）で実施した。249名を合格（合格率80.6% 前年比マイナス1.4%）とした。症例要約得点+筆記試験得点+口頭試問減点+個人情報保護法抵触減点=総合評価を例年通り行った。（坂口美佳 専門医試験小委員会委員長）

現行の専門医制度細則の臨床経験の規定として、専門医申請においては週5日以上教育指定病院、ないしは教育関連病院の勤務が必要（それ以下の場合、勤務換算率が下がる）としている。しかし働き方改革における現実を踏まえ、週3ないし4日の勤務を許容する医療機関・施設も増加しているため、この規定を改訂する必要がある、理事会での審議が必要と決した。

2) 認定施設・教育関連施設の新規認定、更新に関する件

認定施設・教育関連施設の新規申請および令和7年度認定施設・教育関連施設の更新認定について、次のとおり説明があり、小委員会審議の結果、専門医制度委員会全会一致で承認された。

(1) 令和7年度 第36回認定施設・教育関連施設の新規認定

	認定施設	教育関連施設	合計
申請施設数	12	60	72
不適格施設数	0	0	0
適格施設数	12	60	72

(2) 令和7年度 認定施設・教育関連施設の更新認定

	認定施設	教育関連施設	合計
更新対象施設数	82	132	214
更新申請施設数	78	114	192
更新辞退施設数	1	8	9
更新認定施設数	78	114	192
認定区分変更予定施設数	3	10	13

3) セルフトレーニング問題のWEB化に関する件

2026年度からセルフトレーニング問題のWEB化の実施を進めていきたい。また、現在の手数料2,000円を3,000円に改訂する審議の結果、専門医制度委員会全会一致で承認された。その後このセルフトレーニング問題のWEB化は、2026年3月の理事会で決定された。

4) カリキュラム小委員会(平和伸仁小委員会委員長)

第6版 専門研修指導マニュアル、専門研修トレ

ニング問題は2025年に発刊された。トレーニング問題においては疑義照会が多く、指導マニュアル（あたらしいガイドライン、疫学、統計）をよく参照して、問題作成の最新化を図ることになった。

その他）日本専門医機構サブスペシャリティ領域懇談会（8月20日）を踏まえた意見書の提出について

① 2025年9月に出した意見書【3つの質問】の提出をしたが、日本専門医機構からの回答について、2026年3月末で未着である。サブスペ認定は内科学会（基本領域サブスペ連絡協議会）での話し合いを行うべきとのこれまでの機構の一貫した回答に対しての質問状であった。

② 以下にその質問状の内容抜粋を記す。

新規のカテゴリー3においては、基本領域の内科学会、泌尿器科学会のそれぞれの専門医が、内科学科共通のカリキュラム・プログラムを通して、基本領域サブスペ連絡協議会の認定が受けられると理解しました。

1) 日本透析医学会専門医は、カテゴリー1, TYPEⅢ（病理や臨床検査等）ではなく、TYPEⅡ：臓器横断的領域分類（総合診療等）を希望しますがいかがでしょうか？

2) 内科・外科、小児科、総合診療科に渡る横断型技術において、今後も内科学会（連絡協議会）のみでの話し合いが、必要になりますでしょうか。従来の連絡協議会との話し合いでは、日本透析医学会は、日本腎臓学会の補完研修であるべき位置づけでした。この主張は数年変化なく、関係する領域学会と連絡協議会でご検討を、の繰り返しで前に進めません。

3) カテゴリー1 基本領域サブスペ連絡協議会の推薦

カテゴリー2 基本領域サブスペ連絡協議会の指定

カテゴリー3 基本領域サブスペ連絡協議会の認定

となっています。日本透析医学会の基本領域サブスペ連絡協議会は内科学会であり、専門医機構がカテゴリーの末尾をどう変えても（推薦、指定、認定）、申請までの全権限を内科学会が強く持っている状況です。複数領域にまたがる場合、基本領域サブスペ連絡協議会に複数の領域学会が委員として参画できず、前に進めません。基本領域サブスペ連絡協議会への関連学会の全ての参画並びに対等な関係になるような制度設計を強く求めたい

と思いますがいかがでしょうか。

日本透析医学会はその厳格な専門医試験制度、更新制度を通して、34万人の維持透析の患者の生命健康維持に従事している。1991年に制度発足し、透析専門医は現在6,596名、同指導医2,024名(2024年11月現在)が存在する。上記のごとく、嬉々として進まないサブスペ領域の状況において、今後日本専門医機構の方針には留意しつつも、機構とは距離を置いた立ち位置で、日本透析医学会の専門医制度を進めていく意思決定が、理事会でも承認されている。

7. 国際学術交流委員会

1) 第70回日本透析医学会学術集会・総会において国際学術交流委員会として下記の企画を実施した。

(1) Symposium1. Newest renal registry data of end stage renal disease of every country in Asia
Chairs: 平和伸仁, 兵藤 透

【GI-20-1】 End-stage kidney disease in Indonesia: a report from Indonesia renal registry

[演者] Aida Lydia Sutanto: Division of Nephrology and Hypertension, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Universitas Indonesia

【GI-20-2】 Renal registry and reimbursement data of end stage renal disease of Thailand

[演者] Kearkiat Praditpornsilpa: Chulalongkorn University

【GI-20-3】 Serum Hepcidin and TIBC in End-stage Chronic Kidney Disease

[演者] Do Manh Ha: Organ Transplant Center, Military Hospital 103

【GI-20-4】 Acquiring Dialysis Registry Data of End Stage Renal Disease in Mongolia

[演者] Saruultuvshin Adiya: Mongolia Japan Hospital, Mongolian National University of Medical Sciences

【GI-20-5】 Newest renal registry data of end-stage kidney disease in Japan

[演者] Takao Masaki: Department of Nephrology, Hiroshima University Hospital

【GI-20-6】 Taiwan's Contribution to Renal Care: Insights from the Dialysis Registry

[演者] Mei-Yi Wu: Division of Nephrology,

Department of Internal Medicine, Shuang Ho Hospital, Taipei Medical University, Taiwan

(2) Symposium2. Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy Chairs: 鶴屋和彦, 長田太助

【GI-21-1】 Dialysis therapy in India challenges and management

[演者] Georgi Abraham: TANKER Foundation and MGM Health Care

【GI-21-2】 Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy of Myanmar

[演者] Khin Thida Thwin: Consultant Nephrologist, Asia Royal Hospital Yangon, Myanmar

【GI-21-3】 Barriers in the selection and treatment of renal replacement therapy in Cambodia

[演者] Pichthida Thim: Cambodian Association of Nephrology, University of Puthisastra, Khmer Kid Pediatric Clinic

【GI-21-4】 Situation Vascular Access for Hemodialysis in Laos

[演者] Chanmaly Keomany: Mittaphab Hospital

【GI-21-5】 Renal replacement therapy options from the perspective of CKD-MBD

[演者] Markus Ketteler: Robert-Bosch-Hospital Stuttgart, Germany

【GI-21-6】 Cognitive Function and Vascular Disease in Dialysis

[演者] Mark Sarnak: Tufts Medical Center, Boston MA

(3) 一般講演 Free Communications

公募を行い第1日目(6月27日)に Oral presentation 4セッション(24演題)、第2日目に Oral presentation 4セッション(22演題)に加え、第3日目に Poster presentation として1セッション(7演題)の応募・講演があった。年齢制限付きで中位および下位所得国からの参加者へ travel grant を提供した。

(4) Farewell Reception

大会2日日夜に開催され、総会に参加された海外からの参加者およびその家族を理事長、大会長、評議員、委員にてお迎えして、学術交流及び友情を深めた。

2) 国際交流派遣事業国際交流派遣事業

海外関連学会へ交流委員は派遣しなかった。

3) その他

令和7年3月28日に発生したミャンマー地震にお

いて、国際学術交流委員会にて交流のある施設を含めた透析施設や環境が大きな被害を受けた。これに対して、本年度にかけて臨床工学推進国際財団、日本血液浄化技術学会とともに本学会から透析関連消耗品の寄贈を行った。これらに関連して、当委員会も協力を行った。

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加した。

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第8回評議員選挙

日本透析医学会定款第20条、21条、22条及び日本透析医学会定款施行細則第14条、15条、16条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第8回評議員の選出を行った。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき、選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行った。
- 2) 同規則第6条に基づき、定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区、140名は地方区とした。
- 3) 同規則第7条に基づき、10月1日付けで電子公告により選挙の公示を行った。
- 4) 同規則第9条第1項に基づき、令和7年10月1日現在の有権者名簿を10月1日付けで電子公告により公示を行った。
- 5) 立候補者しようとする者に、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報(有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率)並びに立候補者の得票及び得票率を開示することを前もって周知した。
- 6) 同条第2項に基づき、11月20日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受けた。
- 7) 同規則第11条第1項に基づき、11月20日までに立候補の届け出を受けたが、届出期限である11月20日以降に1名の届出があり、届出を認めないこととした。
- 8) 同条第4項に基づき、12月1日までに立候補の辞退を受け付けたが、1名の届出があり、辞退を認めた。
- 9) 同規則第12条に基づき、候補者の氏名を12月1日付けで電子公告により公示を行った。
- 10) 同規則第13条に基づき、令和8年2月15日に投票を締め切った。
- 11) 同規則第16条に基づき、投票終了後令和8年2月21日に開票立会人のもとに、開票を行った。
- 12) 同規則第21条に基づき、当選者が決定した後、当

選者に通知し、電子公告により公示を行った。また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報(有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率)並びに立候補者の得票数及び得票率を開示した。

- 13) 同規則第22条に基づき、選挙結果発表日より14日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受け付けた。

9. 保険委員会

令和8年度改定の最終要望提出並びにその審査の年度であり、対応を行った。

1) 外科系学会社会保険委員会連合関連

短期滞在手術等基本料が算定できる手術を拡大要望：当学会関連手術として認可されている項目はK616-4のみ、VAに関わる他の手術(カフ型カテ留置、内シャント造設、バイアバーン留置、AVG、動静脈表在化、結紮術など)も算定対象に加えるよう要望した。メリットとして多くの手術が外来での施行可能にもかかわらず入院で施行されていることから、短期滞在手術等基本料が算定できるようになることで入院室用ベッド数の削減が可能、入院費用の算定がなくなることから医療費の削減の可能性、および高齢者の入院に伴う筋力低下・認知力低下などの予防にもなることをヒアリングでは主張し一定の理解を得た。これに伴いカテーテル挿入がDPC施設・高齢者施設入所者に算定できないことに対する対策としても期待される。

2) 内科系学会社会保険連合関連

非自己管理型在宅血液透析(居宅血液透析)の認可を申請した。これは現在の自己管理が原則である在宅血液透析とは一線を画し、医療従事者が居宅におもむき治療を行う行為と規定した。本申請にあたり非医療機関での医療行為が可能か否か等が問題となるので、厚生労働省の担当部署との相談が必要とされた。今後対応予定。

3) その他

・腹膜透析のPDバック交換は本人施行が原則になるも、高齢化などの様々な問題で施行が困難な状況が生まれている。現在はあやふやな状況が継続している。このため日本腹膜透析医学会並びに患者会とも連携し、PDバック交換の家族施行への明文化を厚生労働省へ陳情した。この結果“やむを得ない場合に限り”家族のバック交換を認めるとの判断を頂いた。今後JSPDと協同し、その範囲並びにトレーニング体制の確立を作製する予定。

- ・ウロキナーゼの流通困難を受け、厚生労働省へ同じく血栓溶解剤である t-PA の透析血栓症への適応拡大を要望した。現時点では t-PA 自体の供給量が少なく対応は困難であるが、厚生労働省としても検討していただけることになった。
- ・透析に使用する薬剤の安定供給に向けて、厚生労働省へ安定供給の体制づくりを強く要望した。一方透析液剤、ヘパリンなどの抗凝固剤に関してはメーカーからの依頼はあったが、J-038 に包括された薬剤であること、薬剤上昇のみでは相対的に J-038 の低下となることから、当会としては対応しないことをメーカーに伝えた。
- ・ウロキナーゼ供給困難によって透析シャント血栓症の治療が困難になっていることを学術委員会内のワーキンググループとも協調し、その代替として血栓除去デバイスの本邦への上市をメーカーに相談したが、最終的には導入するにあたり治験が必要なこと、費用回収が見込めないことから断念され、現在この会社との交渉は終了となった。今後、海外では使用できる血栓除去デバイスの本邦への導入を目指して、他社との協議を行う予定。
- ・在宅血液透析で使用する個人用透析液 A 液の小容量ソフトバッグ化と B 液のカートリッジ化の認可を要望する件は、現在カーボンフットプリントの計算など環境問題、運送問題等とも絡めて準備を行っている段階。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

- (1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。
- (2) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査 2 件について、承認し理事長に答申し申請者に通知した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった 2 件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し、倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属、施設会員名簿）の提供依頼があり

- (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第 4 条関係）
8 件申請があり、8 件を承認した。

11. 腎不全総合対策委員会

- 1) 本委員会では、腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者の QOL の改善を目標に、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2025 年度は、地域の問題を踏まえた腎不全対策をテーマとして、地域の問題、保存期 CKD 治療の影響、栄養指導、遠隔医療などを盛り込んだ企画として、第 70 回日本透析医学会学術集会・総会の学会、委員会企画で 5 人の演者に解説していただいた。

タイトル：「地域を踏まえた腎不全対策を考える」

1. 地域の腎不全医療の実情 岩手医科大学 阿部貴弥先生
2. CKD 治療薬の腎不全医療への影響 期待と現実 久留米医科大学 深水 圭先生
3. 透析患者のやる気を引き出す栄養指導 斉藤内科クリニック 坂井敦子先生
4. エコー下ガイドアクセス穿刺の普及を目指す 桃仁会病院 人見泰正先生
5. 遠隔医療技術を用いた腹膜透析管理 長崎大学 西野友哉先生

- 2) 腎代替療法へのスムーズな移行に関する調査研究の論文化

透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師（診療科など）、導入期のアクセス使用状況、インターベンションの必要性、などの実態調査を実施した結果を論文化した。日本透析医学会雑誌に投稿中である。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに、災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った。

2) 災害対策小委員会（山川智之委員長）

- (1) 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会（2025 年 6 月 27 日～29 日、グランキューブ大阪（大阪国際会議場））において、災害に関する危機管理委員会企画を行った。

テーマ：「透析療法災害対策における広域・行政との連携」

司会：鶴屋和彦、山川智之

- 1) 忠地一輝（岩手県立胆沢病院泌尿器科）岩手県における広域・行政との連携
- 2) 小笠原賢（青森県立中央病院泌尿器科）青森県

における広域・行政との連携

- 3) 石垣さやか(浜松医科大学医学部附属病院血液浄化療法部) 静岡県における広域・行政との連携
- 4) 矢尾 淳(関東労災病院腎臓内科) 関東圏における広域・行政との連携
- 5) 米田龍生(奈良県立医科大学附属病院透析部) 奈良県における広域・行政との連携
- 6) 水政 透(うえの病院) 福岡県における広域・行政との連携
- 7) Yoo Kyung Don (Division of Nephrology, University of Ulsan) Disaster Management in Dialysis Healthcare in South Korea: Collaboration with Regional and Administrative Authorities
- (2) 第71回日本透析医学会学術集会・総会(2026年6月19日～21日, 神戸ポートピアホテル)において、「大規模地震時医療活動訓練の経験と課題」をテーマとした災害対策に関する危機管理委員会企画を立案した。
- (3) 韓国腎臓学会(KSN)より2025年年次総会(2025年6月, ソウル市)における災害対策企画の司会と演者派遣の依頼を受け、東北大学の宮崎真理子先生と浜松医科大学の石垣さやか先生に担当いただいた。
- (4) 第69回日本透析医学会学術集会・総会(2024年)の災害対策小委員会企画の発表内容については、各発表者に日本透析医学会雑誌への掲載原稿を作成いただき、2025年9月号に掲載された。
山川智之, 小林真也, 山本 卓, 谷村正信, 田尻哲也, 比嘉 啓, 鶴屋和彦: 危機管理委員会報告: 地域における災害時透析医療確保の取り組み. 透析会誌 2025; 58 (9): 406-13.
- 3) 医療安全対策小委員会(満生浩司委員長)
 - (1) 医療事故調査報告制度に協力団体として登録しており、医療事故調査・支援センターからの依頼があった場合、調査委員を派遣して事故事例のセンター調査に協力している。今年度は部会員、部会長の派遣依頼はなかった。
 - (2) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し、必要に応じて委員の更新を行った。
 - (3) 第70回日本透析医学会学術集会・総会(2025年6月27日～29日, グランキューブ大阪(大阪国際会議場))において、医療安全に関する危機管理委員会企画を行った。
テーマ:「透析医療における医療安全のための提言」
司会: 鶴屋和彦, 満生浩司

- 1) 安藤亮一(医療法人社団石川記念会腎臓内科) 提言の概要と策定方針
- 2) 北村温美(大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部)医療安全管理体制と医療安全の方策
- 3) 山家敏彦(神奈川工科大学健康医療科学部臨床工学科) 透析操作関連事故防止
- 4) 木全直樹(中野南口クリニック透析室) 抜針・回路離断事故防止
- 5) 満生浩司(九州中央病院腎臓内科) 穿刺・止血関連事故防止
- 6) 小山貴也(桑園中央病院血液透析センター) 転倒・転落事故防止
- 7) 古久保拓(仁真会白鷺病院薬剤科) 薬剤関連事故防止
- 8) 宮崎真理子(東北大学腎臓内科学) 事故後の医療機関における組織的対応
- (4) 「次亜塩素酸ナトリウム溶液と酸性溶液の誤混入による塩素ガス発生事故に関する全国透析施設の実態調査」を郵送で実施し、医療安全対策小委員会において回収した回答を解析した。
- (5) 第71回日本透析医学会学術集会・総会(2026年6月19日～21日, 神戸ポートピアホテル)において、上記実態調査の結果をテーマとした医療安全に関する危機管理委員会企画を立案した。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

報告事項なし。

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会, 日本腎臓病薬物療学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会, 女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する活動を行っていた。日本透析医学会雑誌 2025 年 58 巻 7 号に「男女共同参画推進委員会報告: 2023 年度透析専門医勤務状況—透析療法領域における男女共同参画実態調査—」として掲載された。

2) 小委員会

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会, 日本腎臓病薬物療学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会のそ

それぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状と検討する。本年度は終了できなかったが、引き続き継続していく。

(2) 女性医師育成小委員会

I. 学会・委員会企画「TSUBASA PROJECT」について

第70回日本透析医学会学術集会・総会において、学会・委員会企画7として、「TSUBASA PROJECT」を開催した。

・第9回「TSUBASA PROJECT」に選出された6名の研究結果を発表し、3名(千葉大学医学部附属病院腎臓内科 若林華恵, 聖路加国際病院心療内科 種本陽子, 長崎大学大学院医歯薬総合研究科腎臓内科学 長崎みなとメディカルセンター 大塚絵美子)の優秀演題賞が選出された。

II. 第10回「TSUBASA PROJECT」について

第10回「TSUBASA PROJECT」を公募した。「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励、援助し、それによって透析医療の向上、女性の活躍を推進させることを目的とし、優れた研究に対して研究助成を行うものである。

第10回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会にTSUBASA PROJECT 賞として応募された抄録から、優れた演題6件を選出する。抄録は日本語、800文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い、理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行する。

1. 応募研究：透析医療に関する基礎研究、臨床研究、未発表論文であること
抄録は日本語、800文字まで。背景、目的、結果、考察を記載すること。
2. 応募資格：日本透析医学会正会員の45歳以下の女性医師
＜他機関の助成中、または助成を受けている場合は当研究の申請は認められない＞
過去に受賞歴のある場合は、受賞回、題目について記載すること。
3. 応募演題：6件
4. 選出報告：当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。
研究助成として、1件につき10万円を授与する。
5. 優秀演題賞：選出した6件の発表内容から、さらに優秀な3演題を選出し、特別研究助成10万円

を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い、理事会の承認を得る。

6. 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT 賞で選出した6件が、2年以内に英文論文化した場合に(日本透析医学会の英文機関誌 Renal Replacement Therapy への投稿を推奨する)、30万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお、論文化に際してTSUBASA PROJECTの助成を受けたことに対する謝意を明記すること。

7. TSUBASA PROJECT 賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

III. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第70回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載を行った。

15. 感染対策委員会

1) 感染対策委員会

1. 透析患者における結核の現状に関するアンケート調査

2024年5月、日本透析医学会の施設会員を対象に、透析患者における結核の現状に関するアンケート調査を実施した。4,167施設にアンケートを送付し、郵送で1,550件、Webで976件、合計2,526件(回収率60.6%)の回答を得た。その後、本調査結果は査読付き英文誌に投稿し、2025年にMedicine (Baltimore)に掲載された。

Yoshifuji A, Kikuchi K, Ando R, Uehara Y, Kanno Y, Kawai T, Masuda N, Morikane K, Nishino T, Sakai K, Takano Y, Ryuzaki M, Wakino S, Takemoto Y, Tomo T. Current tuberculosis status and challenges among dialysis patients in Japan: A nationwide cross-sectional survey. Medicine (Baltimore). 2025. 31; 104 (44) : e44903. doi: 10.1097/MD.00000000000044903.

2. 透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関する調査

2024年3月31日で新型コロナワクチンの全額公費による接種は終了した。そして、2024年10月1日から2025年3月31日まで実施された、新型コロナワクチンの定期接種の対象者は、一般は65歳以上、透析患者は60歳以上と対象が限定され、費用についても各自自治体において設定した自己負担額が必要となった。そして、60歳未満の透析患者は任意接

種となり、費用も全額自己負担となった。

このような背景の変化から、透析患者における新型コロナワクチンの接種状況、感染率、重症化リスクや致死率を、全体や年代別で調査する必要性が高いと考えた。さらに2024年から2025年にかけて、インフルエンザの大規模な流行が発生したことから、インフルエンザについても同様の調査を行う必要が高いと考えた。

2025年4月に「外来維持血液透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況」に関するアンケート調査を実施した。日本透析医学会会員施設4,184施設にアンケート調査を依頼し、2,176件〔郵送1,177件、Web 808件〕の回答を得た。重複回答や維持血液透析を実施していない施設および施設患者数が未回答であった施設を除外し、最終的に1,856件（維持血液透析患者数149,238人）を解析対象とした。

結果、2024年シーズン（2024年10月～2025年3月）の新型コロナワクチン接種率は41.5%であり、2022年シーズン（2022年10月～2023年3月）の接種率95.1%と比較して、半分以下に低下していた。

特に、接種費用が全額自己負担となる60歳未満では、2024年シーズンの接種率は15.2%であり、2022年シーズンの接種率92.1%と比較して、著しく低下していた。

新型コロナウイルス感染後の入院率は13.5%と高率であり、特に75歳以上では20.3%と非常に高率であった。また、致死率は1.9%と依然として高く、特に75歳以上では3.2%と極めて高率であった。

以上より、透析施設および透析患者に対するワクチン接種の啓発を行い、接種率の向上を図ることは重要であると考えられた。さらに、透析患者に対するワクチン接種費用への公的支援について、厚生労働省へ要望する必要があると考えられた。

なお、本アンケート結果は、調査にご協力いただいた会員施設への報告として、2025年10月8日に日本透析医学会のホームページに掲載し、メーリングリストを通じて配信した。

現在、本調査結果は査読付き英文誌に投稿している（2026年4月10日時点）。

3. 厚生労働副大臣への「透析患者における新型コロナワクチン接種に関する要望書」の提出について

日 時：令和7年10月3日（金）10：30～11：00

場 所：厚生労働副大臣室

出席者：厚生労働副大臣 鰐淵洋子、参議院議員 秋野公造、理事長 友 雅司、感染対策

委員長 菊地 勘

議 題：

透析患者における新型コロナワクチン接種に関する要望

友理事長、菊地委員長より鰐淵副大臣に資料を用いて、透析患者の入院率、致死率の高さについて説明した。また、令和6年10月より新型コロナワクチンの接種が有料となり、透析患者のワクチン接種率が低下したこと、特に定期接種対象外の60歳未満のワクチン接種率が非常に低下したことを説明した。その後、要望書を手渡した。

4. 感染対策委員会の開催

日 時：令和7年9月22日（月）17：00～18：00

会 議：WEB会議

① 感染対策委員会「外来維持血液透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケート」の結果報告

② 2026年の第71回日本透析医学会学術集会・総会における感染対策委員会企画について
企画1：透析患者におけるウイルス感染症の最新知見

企画2：透析患者における耐性菌と感染対策

③ 日本呼吸器学会との肺炎球菌ワクチンに関する合同シンポジウムについて

・第71回日本透析医学会学術集会・総会では、日本呼吸器学会の肺炎球菌ワクチン普及プロジェクトの一環として、合同セッションを開催する。

・肺炎球菌は高齢者およびリスク因子を有する患者で重症化をきたしやすいため、肺炎球菌ワクチンの接種が推奨されているが、その接種率は20～30%程度と低く、タンパク結合型ワクチンでは接種率がさらに低い状況が続いている。

・本セッションでは、肺炎球菌感染症のハイリスクである透析患者を診察している先生方に、肺炎球菌感染症の疾病負担やワクチン接種の重要性について伝える企画である。

日本呼吸器学会との肺炎球菌ワクチンに関する合同シンポジウム

座長：菊地 勘（日本透析医学会）、大石和徳（日本呼吸器学会）

演者：

① 透析患者における感染症のリスクと肺炎

球菌ワクチン接種の重要性(日本透析医学会 吉藤 歩)

② 肺炎球菌感染症の概要と肺炎球菌ワクチンの基本的な内容(日本呼吸器学会 中村 茂樹)

③ ワクチン接種率の現状と接種率向上のために必要なことについて(日本呼吸器学会 永井英明)

5. 2025 年の第 70 回日本透析医学会学術集会・総会において、以下の感染対策委員会企画を行った。
セッションタイトル：「バスキュラーアクセス/ペリトネアルアクセスと感染予防」

司会：菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）
丹野有道（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）

演題・演者：

- (1) バスキュラーアクセス管理と感染予防
甲斐耕太郎（バスキュラーアクセスクリニック目白）
- (2) エコーガイド下穿刺と感染予防
増田直仁（東京都済生会中央病院腎臓内科）
- (3) 透析用カテーテルに関連した感染対策
谷口弘美（東葛クリニック病院看護部）
- (4) 腹膜透析カテーテルと腹膜透析感染予防
井上朋子（川島病院腎臓内科）

セッションタイトル：「透析患者におけるワクチン接種と感染症の予防戦略」

司会：菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）
竜崎崇和（東京都済生会中央病院腎臓内科）

演題・演者：

- (1) ワクチンと自然免疫
中山哲夫（北里大学大村智記念研究所）
- (2) インフルエンザワクチン
安藤亮一（医療法人社団石川記念会）
- (3) 血液透析患者における新型コロナワクチン接種～JSDT2022 年末統計調査より～
菅原有佳（東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科）
- (4) 透析患者における肺炎球菌ワクチン接種～定期接種スケジュールの変更と新たに承認されたワクチンを踏まえて～
井原宏彰（江東病院呼吸器内科）
- (5) 透析患者への帯状疱疹ワクチンおよび RS ウイルスワクチンの必要性
吉藤 歩（慶應義塾大学医学部感染症学/腎臓内分泌代謝内科）
- (6) 透析患者と医療従事者に対する HB ワクチン接種
菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

Ⅱ．処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理 事

役 職 名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報 酬	他の法人等の 代表状況等
理事長	友 雅 司	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会 理事長 特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会 理事長
常任理事	阿 部 雅 紀	同	非常勤	なし	
同	猪 阪 善 隆	同	非常勤	なし	
同	酒 井 謙	同	非常勤	なし	
理 事	繪 本 正 憲	同	非常勤	なし	
同	小 川 智 也	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本在宅血液透析学会 理事長
同	菅 野 義 彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本臨床栄養学会 理事長
同	菊 地 勘	同	非常勤	なし	一般社団法人 東京都区部災害時 透析医療ネットワーク 代表理事
同	倉 賀 野 隆 裕	同	非常勤	なし	
同	小 岩 文 彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本CKD-MBD学会 理事長
同	後 藤 順 一	同	非常勤	なし	北海道透析医会 会長
同	鶴 屋 和 彦	同	非常勤	なし	
同	長 沼 俊 秀	同	非常勤	なし	
同	中 野 敏 昭	同	非常勤	なし	
同	西 尾 妙 織	同	非常勤	なし	
同	花 房 規 男	同	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化AI学会 代表理事
同	林 香	同	非常勤	なし	
同	平 和 伸 仁	同	非常勤	なし	
同	深 澤 瑞 也	同	非常勤	なし	
同	正 木 崇 生	同	非常勤	なし	一般社団法人 中国腎不全研究会 代表理事
同	米 田 龍 生	同	非常勤	なし	奈良県医師会透析部会 理事長
同	脇 野 修	同	非常勤	なし	

(2) 監 事

役 職 名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報 酬	他の法人等の 代表状況等
監 事	内 田 潤 次	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	一般社団法人 大阪透析研究会 代表理事
同	小 川 哲 也	同	非常勤	なし	
同	齋 藤 満	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役 職 名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報 酬	備 考
1	評 議 員	赤 井 靖 宏	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	浅 井 利 大	同	非常勤	なし	
3	同	朝 田 啓 明	同	非常勤	なし	
4	同	浅 沼 克 彦	同	非常勤	なし	
5	同	東 治 人	同	非常勤	なし	
6	同	阿 部 雅 紀	同	非常勤	なし	
7	同	雨 宮 守 正	同	非常勤	なし	
8	同	荒 木 信 一	同	非常勤	なし	
9	同	荒 木 崇 志	同	非常勤	なし	
10	同	荒 木 英 雄	同	非常勤	なし	
11	同	安 藤 忠 助	同	非常勤	なし	
12	同	安 藤 哲 郎	同	非常勤	なし	
13	同	家 原 典 之	同	非常勤	なし	
14	同	井 尾 浩 章	同	非常勤	なし	
15	同	池 田 直 史	同	非常勤	なし	
16	同	池 田 雅 人	同	非常勤	なし	
17	同	猪 阪 善 隆	同	非常勤	なし	
18	同	石 井 大 輔	同	非常勤	なし	
19	同	石 田 英 樹	同	非常勤	なし	
20	同	石 津 隆	同	非常勤	なし	
21	同	石 橋 由 孝	同	非常勤	なし	
22	同	和 泉 雅 章	同	非常勤	なし	
23	同	磯 野 元 秀	同	非常勤	なし	
24	同	一 色 啓 二	同	非常勤	なし	
25	同	井 手 健 太 郎	同	非常勤	なし	
26	同	伊 藤 孝 史	同	非常勤	なし	
27	同	稲 熊 大 城	同	非常勤	なし	
28	同	今 田 崇 裕	同	非常勤	なし	
29	同	岩 田 恭 宜	同	非常勤	なし	
30	同	岩 谷 博 次	同	非常勤	なし	
31	同	内 田 潤 次	同	非常勤	なし	
32	同	内 山 清 貴	同	非常勤	なし	
33	同	海 上 耕 平	同	非常勤	なし	
34	同	榎 田 英 樹	同	非常勤	なし	
35	同	海 老 原 至	同	非常勤	なし	
36	同	繪 本 正 憲	同	非常勤	なし	
37	同	大 島 直 紀	同	非常勤	なし	

	役 職 名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報 酬	備 考
38	同	大 城 義 之	同	非常勤	なし	
39	同	大 田 聡	同	非常勤	なし	
40	同	大 坪 茂	同	非常勤	なし	
41	同	大 橋 靖	同	非常勤	なし	
42	同	岡 田 浩 一	同	非常勤	なし	
43	同	緒 方 浩 顕	同	非常勤	なし	
44	同	小 川 哲 也	同	非常勤	なし	
45	同	小 川 智 也	同	非常勤	なし	
46	同	柏 木 哲 也	同	非常勤	なし	
47	同	春 日 弘 毅	同	非常勤	なし	
48	同	上 條 祐 司	同	非常勤	なし	
49	同	川 合 徹	同	非常勤	なし	
50	同	川 口 祐 輝	同	非常勤	なし	
51	同	川 瀬 友 則	同	非常勤	なし	
52	同	河 原 崎 宏 雄	同	非常勤	なし	
53	同	神 田 英 一 郎	同	非常勤	なし	
54	同	神 田 武 志	同	非常勤	なし	
55	同	菅 野 義 彦	同	非常勤	なし	
56	同	菊 川 忠 彦	同	非常勤	なし	
57	同	菊 地 勘	同	非常勤	なし	
58	同	菊 池 正 雄	同	非常勤	なし	
59	同	北 村 健 一 郎	同	非常勤	なし	
60	同	木 村 朋 由	同	非常勤	なし	
61	同	熊 田 憲 彦	同	非常勤	なし	
62	同	倉 賀 野 隆 裕	同	非常勤	なし	
63	同	小 出 滋 久	同	非常勤	なし	
64	同	小 岩 文 彦	同	非常勤	なし	
65	同	合 田 朋 仁	同	非常勤	なし	
66	同	河 野 圭 志	同	非常勤	なし	
67	同	後 藤 順 一	同	非常勤	なし	
68	同	後 藤 俊 介	同	非常勤	なし	
69	同	小 林 洋 輝	同	非常勤	なし	
70	同	小 林 広 学	同	非常勤	なし	
71	同	小 林 衛	同	非常勤	なし	
72	同	小 向 大 輔	同	非常勤	なし	
73	同	米 田 雅 美	同	非常勤	なし	
74	同	小 山 一 郎	同	非常勤	なし	
75	同	今 裕 史	同	非常勤	なし	
76	同	斎 藤 知 栄	同	非常勤	なし	
77	同	齋 藤 満	同	非常勤	なし	

	役 職 名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報 酬	備 考
78	同	酒 井 謙	同	非常勤	なし	
79	同	酒 井 行 直	同	非常勤	なし	
80	同	坂 口 美 佳	同	非常勤	なし	
81	同	櫻 田 勉	同	非常勤	なし	
82	同	佐々木 健 介	同	非常勤	なし	
83	同	佐 藤 純 彦	同	非常勤	なし	
84	同	佐 藤 暢	同	非常勤	なし	
85	同	佐 藤 元 美	同	非常勤	なし	
86	同	志 熊 聡 美	同	非常勤	なし	
87	同	島 野 泰 暢	同	非常勤	なし	
88	同	清 水 泰 輔	同	非常勤	なし	
89	同	常 喜 信 彦	同	非常勤	なし	
90	同	白 石 晃 司	同	非常勤	なし	
91	同	新 宅 究 典	同	非常勤	なし	
92	同	杉 浦 寿 央	同	非常勤	なし	
93	同	杉 田 省 三	同	非常勤	なし	
94	同	鈴 木 朗	同	非常勤	なし	
95	同	鈴 木 一 裕	同	非常勤	なし	
96	同	鈴 木 利 彦	同	非常勤	なし	
97	同	鈴 木 仁	同	非常勤	なし	
98	同	瀬 田 公 一	同	非常勤	なし	
99	同	蘇 原 映 誠	同	非常勤	なし	
100	同	祖 父 江 理	同	非常勤	なし	
101	同	高 田 知 朗	同	非常勤	なし	
102	同	滝 沢 英 毅	同	非常勤	なし	
103	同	滝 本 千 恵	同	非常勤	なし	
104	同	竹 内 康 雄	同	非常勤	なし	
105	同	竹 田 徹 朗	同	非常勤	なし	
106	同	田 代 学	同	非常勤	なし	
107	同	田 中 賢 治	同	非常勤	なし	
108	同	田 中 啓 之	同	非常勤	なし	
109	同	田 邊 克 幸	同	非常勤	なし	
110	同	田 邊 起	同	非常勤	なし	
111	同	谷 口 正 智	同	非常勤	なし	
112	同	谷 山 佳 弘	同	非常勤	なし	
113	同	玉 垣 圭 一	同	非常勤	なし	
114	同	田 村 功 一	同	非常勤	なし	
115	同	丹 野 有 道	同	非常勤	なし	
116	同	辻 本 吉 広	同	非常勤	なし	
117	同	津 畑 豊	同	非常勤	なし	

	役 職 名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報 酬	備 考
118	同	鶴 屋 和 彦	同	非常勤	なし	
119	同	土 井 研 人	同	非常勤	なし	
120	同	戸 川 証	同	非常勤	なし	
121	同	徳 本 正 憲	同	非常勤	なし	
122	同	徳 山 博 文	同	非常勤	なし	
123	同	友 雅 司	同	非常勤	なし	
124	同	友 利 浩 司	同	非常勤	なし	
125	同	内 藤 省 太 郎	同	非常勤	なし	
126	同	長 井 幸 二 郎	同	非常勤	なし	
127	同	中 倉 兵 庫	同	非常勤	なし	
128	同	中 島 歩	同	非常勤	なし	
129	同	中 田 純 一 郎	同	非常勤	なし	
130	同	長 田 太 助	同	非常勤	なし	
131	同	仲 谷 慎 也	同	非常勤	なし	
132	同	長 門 谷 克 之	同	非常勤	なし	
133	同	長 沼 俊 秀	同	非常勤	なし	
134	同	中 野 敏 昭	同	非常勤	なし	
135	同	中ノ内 恒 如	同	非常勤	なし	
136	同	中 村 典 雄	同	非常勤	なし	
137	同	中 村 道 郎	同	非常勤	なし	
138	同	中 山 晋 二	同	非常勤	なし	
139	同	名 波 正 義	同	非常勤	なし	
140	同	成 瀬 友 彦	同	非常勤	なし	
141	同	西 尾 妙 織	同	非常勤	なし	
142	同	西 田 隼 人	同	非常勤	なし	
143	同	西 野 友 哉	同	非常勤	なし	
144	同	二 瓶 大	同	非常勤	なし	
145	同	野 口 智 永	同	非常勤	なし	
146	同	橋 本 幸 始	同	非常勤	なし	
147	同	長 谷 川 毅	同	非常勤	なし	
148	同	服 部 憲 幸	同	非常勤	なし	
149	同	花 房 規 男	同	非常勤	なし	
150	同	浜 崎 敬 文	同	非常勤	なし	
151	同	濱 野 高 行	同	非常勤	なし	
152	同	早 川 和 良	同	非常勤	なし	
153	同	林 香	同	非常勤	なし	
154	同	林 晃 正	同	非常勤	なし	
155	同	林 秀 樹	同	非常勤	なし	
156	同	早 田 学	同	非常勤	なし	
157	同	原 澤 信 介	同	非常勤	なし	

	役 職 名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報 酬	備 考
158	同	播 本 幸 司	同	非常勤	なし	
159	同	番 匠 谷 将 孝	同	非常勤	なし	
160	同	樋 口 輝 美	同	非常勤	なし	
161	同	平 間 章 郎	同	非常勤	なし	
162	同	平 山 浩 一	同	非常勤	なし	
163	同	平 和 伸 仁	同	非常勤	なし	
164	同	深 澤 瑞 也	同	非常勤	なし	
165	同	深 水 圭	同	非常勤	なし	
166	同	福 田 顕 弘	同	非常勤	なし	
167	同	古 市 賢 吾	同	非常勤	なし	
168	同	古 野 剛 史	同	非常勤	なし	
169	同	星 野 純 一	同	非常勤	なし	
170	同	細 島 康 宏	同	非常勤	なし	
171	同	本 田 浩 一	同	非常勤	なし	
172	同	前 田 兼 徳	同	非常勤	なし	
173	同	正 木 崇 生	同	非常勤	なし	
174	同	升 谷 耕 介	同	非常勤	なし	
175	同	松 尾 七 重	同	非常勤	なし	
176	同	松 岡 哲 平	同	非常勤	なし	
177	同	松 下 和 通	同	非常勤	なし	
178	同	松 田 洋 人	同	非常勤	なし	
179	同	丸 山 彰 一	同	非常勤	なし	
180	同	丸 山 高 史	同	非常勤	なし	
181	同	丸 山 範 晃	同	非常勤	なし	
182	同	丸 山 之 雄	同	非常勤	なし	
183	同	三 浦 健 一 郎	同	非常勤	なし	
184	同	水 崎 浩 輔	同	非常勤	なし	
185	同	三 瀬 直 文	同	非常勤	なし	
186	同	溝 渕 正 英	同	非常勤	なし	
187	同	満 生 浩 司	同	非常勤	なし	
188	同	水 口 齐	同	非常勤	なし	
189	同	三 野 和 宏	同	非常勤	なし	
190	同	宮 園 素 明	同	非常勤	なし	
191	同	宮 本 哲	同	非常勤	なし	
192	同	望 月 保 志	同	非常勤	なし	
193	同	森 克 仁	同	非常勤	なし	
194	同	森 建 文	同	非常勤	なし	
195	同	森 下 義 幸	同	非常勤	なし	
196	同	森 本 耕 吉	同	非常勤	なし	
197	同	森 山 能 仁	同	非常勤	なし	

	役 職 名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報 酬	備 考
198	同	安 田 日 出 夫	同	非常勤	なし	
199	同	柳 田 太 平	同	非常勤	なし	
200	同	山 川 智 之	同	非常勤	なし	
201	同	山 口 慎 太 郎	同	非常勤	なし	
202	同	山 田 保 俊	同	非常勤	なし	
203	同	山 中 正 人	同	非常勤	なし	
204	同	山 本 泉	同	非常勤	なし	
205	同	山 本 聡	同	非常勤	なし	
206	同	山 本 卓	同	非常勤	なし	
207	同	横 地 章 生	同	非常勤	なし	
208	同	吉 田 理	同	非常勤	なし	
209	同	吉 田 英 昭	同	非常勤	なし	
210	同	吉 嶺 陽 仁	同	非常勤	なし	
211	同	吉 本 明 弘	同	非常勤	なし	
212	同	米 田 龍 生	同	非常勤	なし	
213	同	頼 建 光	同	非常勤	なし	
214	同	若 杉 三 奈 子	同	非常勤	なし	
215	同	脇 野 修	同	非常勤	なし	
216	同	鷺 田 直 輝	同	非常勤	なし	
217	同	渡 辺 誠	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区 分	人 数	報酬等の総額	備 考
理 事	22 名	なし	
監 事	3 名	なし	
評 議 員	217 名	なし	
合 計	242 名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	2026 年 3 月 31 日現在	2025 年 3 月 31 日現在		
正 会 員	14,225	14,178	47	
施設会員	4,167	4,183	－ 16	
賛助会員	51	55	－ 4	
名誉会員	53	53	0	
計	18,496	18,469	27	

③ 職員に関する事項

令和7年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	小 島 吉 晴	令和 5年 4月 1日	総 括 管 理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 7 年 6 月 13 日 第 1 回理事会	1. 入会・退会に関する件 2. 令和 7 年度日本透析医学会（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 3. 令和 6 年度事業報告（案）に関する件 4. 令和 6 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 5. 令和 6 年度監事による監査報告に関する件 6. 透析患者の糖尿病治療ガイドの英文化に関する件 7. 2025 年度補正予算に関する件 8. 規則等の一部改正に関する件 9. 2025 年度 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム研修生募集要項（事後審議） 10. 第 70 回学術集会・総会開催時の各賞表彰式次第（案）に関する件 11. 委員会委員の追加および交代に関する件 12. 委員会の設置に関する件 13. 統計調査委員会関連 14. 男女共同参画推進委員会関連 15. 第 70 回（令和 7 年）学術集会・総会に関する件 16. 第 71 回（令和 8 年）学術集会・総会に関する件 17. 第 72 回（令和 9 年）学術集会・総会に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 7 年 6 月 26 日 第 2 回理事会	1. 第 70 回通常総会の進行に関する件 2. 規則の一部改正に関する件 3. 第 71 回（令和 8 年）学術集会・総会に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 7 年 12 月 12 日 第 3 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 幹事の推薦に関する件 3. 第 71 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 4. 第 72 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 5. 第 73 回学術集会・総会の予算（案）に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(2) 総 会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
令和 7 年 6 月 26 日 通常総会	1. 一般社団法人日本透析医学会評議員選出規則の一部改正（案）に関する件 2. 令和6年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 3. 名誉会員推薦に関する件 4. 第73回総会並びに会長に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(3) 各種委員会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会	「該 当 な し」	
・財務委員会 令和 7 年 11 月 18 日	1. 2025 年度予算の誤謬訂正について 2. 2025 年度 事業計画に伴う補正予算要求について 3. 正味財産増減予算書（誤謬訂正後、補正予算額を加えた予算書）について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 8 年 3 月 10 日	1. 2026 年度予算（案）について 2. 2026 年度新規事業計画に伴う概算要求（案）について 3. 2026 年度事業計画（案）について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・編集委員会	「該 当 な し」	
・学術委員会 令和 7 年 4 月 11 日	1. 学会賞・奨励賞の選考に関する件	全会一致で承認
・統計調査委員会 令和 7 年 5 月 23 日	1. 2024 年調査のまとめ 2. 2024 年現況報告案、CD-ROM 帳票案の提示 3. 2025 年（次年）調査内容の検討 4. EDC 推進検討ワーキンググループ会議の報告 5. 公募研究採択案件について 6. WADDA システム利用規程について 7. 第 70 回日本透析医学会学術集会 統計調査委員会企画 8. USRDS へのデータ提供	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 7 年 8 月 1 日	1. EDC（Electronic Data Capture）の仕様に関する検討 2. 2024 年調査のまとめと今後の予定 3. 2024 年調査 現況報告、CD-ROM 帳票 4. 2025 年調査内容の決定 5. 2025 年調査実施に向けて 6. 2024 年度公募研究 7. 公募研究内規の改訂 8. 統計調査入力用 Excel ファイルの目的外使用届について 9. 他団体へのデータ提供（USRDS）、SharE-RR 報告	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 7 年 10 月 23 日	10. 2026 年学術集会 第 71 回学術集会 委員会企画 1. 統計調査委員会と EDC 推進検討 WG の合同会議について 2. 2025 年調査について 3. 2024 年現況報告、CD-ROM 帳票 4. 統計調査入力用 Excel ファイル目的外使用について 5. 公募研究 募集～データ提供までのスケジュール等 6. WADDA システム 研究切出しシステム 7. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画の内容について 8. SharE-RR に関する報告	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 8 年 2 月 27 日	1. 2025 年調査の経過報告と今後のスケジュール 2. 2026 年度事業計画と 2025 年度事業報告の確認 3. 2026 年調査内容の検討	報告・承認 報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・保険委員会	「該 当 な し」	
・倫理委員会 令和 7 年 9 月 1 日	1. 日本透析医学会統計調査にかかわる臨床研究倫理審査について	全会一致で承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会 令和 7 年 10 月 6 日	1. 令和 7 年度の事業報告について 2. 第 71 回学術集会の災害対策小委員会の委員会企画 3. 第 71 回学術集会の医療安全小委員会の委員会企画 4. 日本医療安全調査機構への協力について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等検討委員会	「該 当 な し」	
・男女共同参画推進委員会	「該 当 な し」	
・感染対策委員会 令和 7 年 9 月 22 日	1. 「外来維持血液透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケート」の結果報告 2. 日本透析医学会での委員会企画について 3. 日本呼吸器学会との肺炎球菌ワクチンに関する合同シンポジウムについて	報告・承認 報告・承認 報告・承認

⑤ 許可，認可，承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該 当 な し」	

事業報告の附属明細書

1. 役員の他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本ハイパフォーマン・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎血液浄化 AI 学会	監 事	一 部
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
常任理事	阿 部 雅 紀	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	副理事長	一 部
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本ハイパフォーマン・メンブレン研究会	理 事	一 部
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	特別顧問	一 部
		一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	一 部
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	酒 井 謙	一般社団法人 日本移植学会	理 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本腹膜透析医学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	一 部
理 事	繪 本 正 憲	一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本マグネシウム学会	理 事	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	小 川 智 也	特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本アフレスィス学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本在宅血液透析学会	理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	小 川 智 也	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	一 部
	菅 野 義 彦	一般社団法人 日本臨床栄養学会	理事長	関係なし
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	関係なし
		一般財団法人 日本栄養療法推進協議会	副理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	菊 地 勘	公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
		NPO 法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 東京都区部災害時透析医療ネットワーク	代表理事	ほぼ同一
	倉 賀 野 隆 裕	特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
	小 岩 文 彦	一般社団法人 日本 CKD-MBD 学会	理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	関係なし
	後 藤 順 一	北海道透析医会	会 長	ほぼ同一
		札幌市透析医会	副会長	ほぼ同一
		日本透析アクセス医学会	副理事長	ほぼ同一
		日本医工学治療学会	理 事	一 部
	鶴 屋 和 彦	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	関係なし
	長 沼 俊 秀	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	ほぼ同一
		大阪透析医会	常任幹事	ほぼ同一
	西 尾 妙 織	一般社団法人 多発性嚢胞腎協会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	花 房 規 男	特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	代表理事	一 部
	林 香	妊娠高血圧学会	理 事	関係なし
	平 和 伸 仁	神奈川県透析医会	理 事	一 部
		一般社団法人 米国内科学会日本支部	監 事	関係なし
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析合併症医学会	理 事	一 部
		日本透析機能評価研究会	理 事	一 部
	正 木 崇 生	一般社団法人 中国腎不全研究会	代表理事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
	米 田 龍 生	一般社団法人 日本移植学会	理 事	ほぼ同一

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	米 田 龍 生	奈良県医師会透析部会	理事長	ほぼ同一
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	ほぼ同一
	脇 野 修	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床栄養学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本腎不全合併症学会	理 事	一 部
監 事	内 田 潤 次	一般社団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	理 事	関係なし
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪透析研究会	代表理事	関係なし
	齋 藤 満	公益財団法人 あきた移植医療協会	理 事	関係なし

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。

令和 8 年度事業計画

自 令和 8 年 4 月 1 日
至 令和 9 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第71回日本透析医学会学術集会・総会は、兵庫医科大学内科学腎・透析内科 教授 倉賀野隆裕会長が主宰し、2026年6月19日（金）、20日（土）、21日（日）の3日間、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場・ワールド記念ホールを会場として開催する。

今回のテーマは「EMPOWER THE PEOPLE. 一腎代替療法に活力を一」を掲げて開催する。

<招待講演>

「New insights in uremic Toxins」, 「How Will USA Adapt Expanded Hemodialysis and On-line Hemodiafiltration?」

<特別講演>

「我が国におけるCKD対策と緩和ケアの現状と政策の方向性」, 「チーム医療を用いたCKD厳格治療は予後を改善し透析導入を抑制する～チーム医療専用クリニック8年間を含む20年間の成績から～」, 「重症化予防と深化した共同意思決定（SDM）の推進に向けて」, 「12歳から50年間の人工透析 感謝の心を生きる力に」, 「AI・デジタル・ロボット技術が拓く未来医療」, 「透析患者における心血管系合併症現状と予防～冠動脈疾患に関して～」, 「The Importance of Residual Renal Function in Hemodialysis Patients and Methods for Maintaining It」

<EMPOWER 特別講演>

「Empower with Weather！蓬萊大介スペシャルレクチャー」, 「Empower with Hand！島田秀平スペシャルレクチャー」

<会長講演>

「EMPOWER THE PEOPLE. 一腎代替療法に活力を一」

<教育講演>

「透析患者の心理尺度～自己効力感・自己決定・透析受容・満足度の適正な評価を目指して～」, 「洗浄・消毒剤誤混入による塩素ガス発生時の対応」, 「透析患者のフレイルを予防するためのオーラルマネジメント」, 「高齢者における栄養維持を考慮した透析療法」, 「腎移植の現状と今後～診療の現場から～」, 「腎疾患患者における眼科診療連携」, 「透析医療における臨床工学技士の役割」, 「透析患者のendovascular surgery」, 「透析患者、高度腎機能障害患者における感染症予防と適切な感染症治療」, 「ガイドライン目標値から外れてしまう患者の腎性貧血治療：

赤血球造血の基礎からのアプローチ」, 「血液浄化療法膜のこれまでの歩みを振り返る」, 「CKM 症候群の視点からみたCKD患者の疲労・睡眠障害・自律神経障害の意義」, 「腎移植の現行の問題点と今後の腎移植ガイド 日本透析医学会の立場から」, 「もしかしてこれってハラスメント?」, 「脳卒中領域における低侵襲治療～透析患者における包括的戦略～」, 「消化器癌に対する低侵襲手術の進歩」, 「患者参加型医療と共同意思決定～腎代替療法選択を超えて～」, 「泌尿器科領域におけるロボット支援手術の現況」, 「慢性腎臓病診療における医療行動経済学」, 「透析施設における能登半島地震からの復興の現状」, 「基礎的な知見からHIF-PH阻害剤の可能性について考える」

<合同企画シンポジウム>

日本腎臓学会：「増加する腎硬化症の疾患概念と治療について」

日本呼吸器学会：「透析患者における肺炎球菌ワクチン接種の意義と推進」

日本腎臓リハビリテーション学会：「透析患者の腎臓リハビリテーション 効果の検証と適切な再指導のタイミング」

日本血液透析濾過医学会：「HDFが普及した今日における適正な排水管理のあり方」

血液浄化AI学会：「AIを活用した次世代の透析・血液浄化を考える」

日本腎代替療法医療専門職推進協会：「腎代替療法の多様化と今後の展開」

<シンポジウム>

「集中治療における新たなアプローチ(New approach for empower the critical care AKI patients)」, 「高齢腹膜透析患者をどう診るか—導入期から終末期まで」, 「アクセストラブル「いつ、何を伝えるべきか?」～VA専門施設と維持透析施設の連携～（狭窄、感染・瘤、穿刺困難、カテーテルトラブル)」, 「小児腎代替療法の最先端」, 「透析患者の言動から患者心理を考える」, 「新時代のCKD-MBD管理」, 「腹膜透析の質向上にむけた多職種連携の取り組み」, 「至適デバイスの選択法」, 「アミロイドーシス診療ガイドライン2025を読み解く：透析アミロイドーシスの新展開」, 「新しい概念を用いた透析患者の体液管理方法」, 「透析患者の糖尿病治療ガイド2025で臨床現場は変わったか?」, 「新たなエビデンスで慢性腎臓病に伴う貧血治療を再考する」, 「過去の被災体験を今に伝える」, 「透析医療の質と栄養状態を考える」, 「I-HDFのさらなる展開～IHDFを始

めるために、さらに高めるために～」,「透析患者の骨粗鬆症対策」,「高齢者に起こる心のフレイルを考える」,「透析患者総数減少時代における各種腎代替療法の対応」,「次世代透析技術の最前線と臨床への展望」,「最新の知見で糖尿病透析患者の ADL・生命予後を守る」

<TSN-KSN-JSDT Joint Symposium>

「renal anemia」

<ワークショップ>

「症例から考える腹膜透析トラブルシューティング」,「透析患者における感染症」,「腎不全期における多発性嚢胞腎の管理」,「食事力(食べる力)をつける栄養指導を考える」,「VA 治療,意思決定の岐路:エキスパートが語るコントラバーシャルな領域」,「最新の基礎研究から将来の腹膜透析治療を考える」,「多職種で考える透析患者のポリファーマシー」,「透析医療における遠隔治療の現状と未来」,「認知症透析患者の看護支援」,「高齢化社会における在宅透析を考える」,「低栄養/慢性炎症を合併した HD/オンライン HDF 患者に対する適正な透析処方を目指して」,「たかがかゆみ,されどかゆみ—多職種連携で治療の質をさらに高めるために—」,「地域で守る在宅透析患者」,「CKD・透析患者に対するがん化学療法の実践マネジメント」,「造血環境を考慮した腎性貧血治療を考える」,「透析患者の遠隔リハビリテーション:現状と展望」,「高齢患者における腹膜透析を再考する」,「新たな知見で透析患者の石灰化に挑む」,「透析患者の抑うつ状態の多面的検証」,「患者 QOL 向上に向けて生活目標の設定がもたらす影響」,「透析患者における微量元素の動態・役割を再考する」,「多職種連携で透析患者の足を守る～下肢末梢動脈疾患～」,「多職種で考えるアフエレーシスの現状と課題」,「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策～AIを活用する時代に気をつけること～」,「患者送迎の現状と問題点」,「これからあるべき透析の液組成」,「透析患者の栄養状態を配慮したリン管理を考える」,「カフ型カテーテルがもたらす明と暗を考える」,「アフエレーシスの Minimally Invasive なバスキュラーアクセスを考える」,「透析患者の心房細動マネジメント up to date」

<International Workshop>

「International Exchange in Dialysis Hospitals」

<パネルディスカッション>

「至適透析量の功罪」,「透析廃棄物処理の現状と将来, Green dialysis よりの提言」,「“その人らしい透析生活を支える”多職種協働で創る未来のケア」,

「VA 感染症の管理と治療:私ならこうする」

<学会・委員会企画>

学術委員会(医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会):「医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題」

危機管理委員会:「大規模地震時医療活動訓練の経験と課題」

統計調査委員会:「JSDT 統計調査データを用いた臨床研究」

学術委員会:「Year in review 2025」

学術委員会(栄養問題検討ワーキンググループ):「透析患者の栄養摂取に関する最新のエビデンス」

学術委員会(血液浄化に関する新技術検討小委員会):「腎代替療法にグリーンな活力をもたらす新技術」

学術委員会(透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会企画):「ESKD における血圧管理」

腎不全総合対策委員会:「高齢時代の腎不全対策」

感染対策委員会:「透析患者における耐性菌と感染対策」

保険委員会:「診療報酬令和 8 年改定内容に関して」

総務委員会(VA 血管内治療認定制度委員会):「JSDT VA 血管内治療認定制度に関して」

統計調査委員会:「WADDA システムの活用」

総務委員会(医療 DX 推進小委員会):「医療 DX の現状と今後の方向性」

学術委員会:「末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言」

男女共同参画推進委員会:「TSUBASA PROJECT」

危機管理委員会:「次亜塩素酸ナトリウム溶液と酸性溶液の誤混入による塩素ガス発生事故に関する全国透析施設の実態調査」

感染対策委員会:「透析患者におけるウイルス感染症の最新知見」

国際学術交流委員会:「Disaster Preparedness for Dialysis Patients: Considering Everyday Measures」

国際学術交流委員会:「The dialysis insurance systems in Asian countries」

<よくわかるシリーズ>

「『透析室における VA 管理の秘訣を教えます!』」,「血液透析患者のかゆみ～適切な治療介入と多職種連携の重要性～」,「いまさら聞けない CKD-MBD の基礎と最新の話題」,「透析患者の腸内細菌叢異常と治療介入」,「透析患者における難治性細菌感染症の治療戦略 Up-to-date」,「高齢者における腹膜透析の役割」,「患者中心の CKD 治療を目指す PD

ファーストの実践～多職種連携によるチーム医療で実現する「その人らしい生活」～, 「地域連携の力で透析患者の歩行をあきらめない」, 「透析用カテーテルの特性を生かした選択と使用方法について」, 「心臓弁膜症に対するカテーテル治療」, 「有効かつ持続可能な腎臓リハビリテーションの展開」, 「腹膜透析患者の教育実態と今後」, 「糖尿病透析患者の全身管理を極める」, 「透析医療における AI の基礎～Attention is All Dialysis Needs～」, 「透析食は制限食か自由食か」, 「透析患者におけるカルニチンを再考する」, 「透析患者における悪性腫瘍の疫学研究からの知見～全国レベルで行った前向き疫学研究の分析を中心に～」, 「高齢患者に優しい透析療法を再考する」, 「腎疾患患者の妊娠」, 「WADDA システムでこんなことができる！～新しい Ca, P 基準値の達成率を計算してみよう～」, 「明日から始める透析患者の石灰化予防」, 「透析患者の尿酸管理～何のために、どのように～」, 「透析関連モニターを使いこなす」, 「今日から使える生成 AI～臨床現場と日常生活を一変させる「副操縦士」の活用法～」, 「透析患者の栄養管理における考え方の変化～パラダイムシフト～」, 「透析膜生体適合性～基礎から臨床へ～」, 「新しいリンの管理目標値達成のための秘訣」

<その他>

医療安全講習会 教育講演 2 「洗浄・消毒剤誤混入による塩素ガス発生時の対応」

医療倫理講習会 教育講演 14 「もしかしてこれってハラスメント？」

感染講習会 教育講演 9 「透析患者、高度腎機能障害患者における感染症予防と適切な感染症治療」

2026 年 7 月 1 日（火）正午～7 月 31 日（木）23：59 まで（会期後オンデマンド配信）

日本透析医学会認定 透析液水質確保に関する研修
※医療安全講習会、医療倫理講習会、感染講習会は現地開催とオンデマンド配信、

日本透析医学会認定 透析液水質確保に関する研修はオンデマンド配信のみとなります。

詳しくは総会ホームページをご確認ください。

2) 通常総会・臨時総会

- (1) 第 71 回通常総会開催：2026 年 6 月 18 日（木）
16：00～17：30
- (2) 臨時総会開催：2026 年 6 月 18 日（木）17：30～
18：00
- (3) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催：2026 年 6 月 20 日（土）13：40～15：10

3) 役員会

- (1) 常任理事会・理事会開催：2026 年 5 月 16 日・6 月 18 日・7 月 日・12 月 日・2027 年 3 月 日
- (2) 監事による監査会開催：2026 年 5 月 14 日（木）

4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

5) 小委員会

- (1) 情報管理小委員会（協野 修委員長）

学会ホームページの円滑な運営、内容充実を図る。

- ① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

- ② コンテンツを見直し、逐次更新する。

- (2) 透析医療専門職資格検討委員会（酒井 謙委員長）

- ① 慢性腎臓病療養指導看護師（平成 29 年 9 月から施行）に関する助言と問題点への対策を行う。

- ② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。

- ③ 管理栄養管理士育成事業として、日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成（CKD 分野）における助言を行う。

- ④ 日本サイコネフロロジー学会が実施する、公認心理師制度における助言を行う。

- ⑤ 腎代替療法専門指導士の応募専門資格・資格更新については、日本腎代替療法医療専門職推進協会と引き続き協議を継続する。日本腎代替療法医療専門職推進協会に新規に参入希望の指導士資格に関しては、協議を推進する。

- (3) 統計調査のあり方小委員会（友 雅司委員長）

- ① あらたな諸法の整備に適応して、統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。

- ② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討する。

- ③ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査の IT 化の方向性を模索する。

- ④ 統計調査データの WEB 収集及び EDC (electric data capture) システムに関わる調査等を実施し、具体的な仕様を EDC 推進検討

ワーキンググループと合同で検討する。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）

- ① 委員会は年に2回、オンラインで実施する。
- ② 昨期に続き、第71回日本透析医学会学術集会・総会（令和8年6月、神戸市）に合わせて、日本での研修を実施する。ラオスから3名、モンゴルから2名の計5名の研修生は、日本透析医学会（3日間）参加の前または後に、4グループ（北里大学（モンゴル）2名、大阪公立大学（ラオス）1名、（医）北辰会（ラオス）1名、（医）田中泌尿器科医院1名）に分かれて研修を実施する。
- ③ 物価高騰に鑑み、研修経費（200万円）に50万円を追加申請する。

(5) 本学会のあり方小委員会（友 雅司委員長）

- ① 公益社団法人への移行について継続した審議・検討を行う。
- ② 一般の人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討し公開していく。特に現在重要な案件である透析専門医に関して日本専門医機構、日本内科学会との意見交換を行いながら、認定に向けて検討を進める。

(6) eラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）

- ① 2026年6月開催の第71回日本透析医学会学術集会・総会における生涯教育プログラムの教育講演から座長・演者の同意を得て、スクリーンアウト方式の動画を収録しコンテンツとする。コンテンツには「医療安全」、「災害」、「倫理」、「感染」を含むように配慮する。
- ② 各演者には試験問題の作成を依頼し、eテストにより専門医更新の単位認定に利用する。専門医の単位認定は、連続した60分の講演1回または30分の講演2コマを連続して視聴し試験に正答することで1単位を認定、年間5単位、5年間で25単位を上限とする。ただし学術集会に参加して既に生涯教育プログラムの5単位を取得した者は同年度のeラーニングでの単位は認定しない。
- ③ 単位認定を希望する者は認定料3,000円を支払う。運用については専門医制度委員会と適宜意見交換を図る。なお、専門医以外の正会員（専攻医を目指す医師を含む）及び施設会員に所属する医療従事者もスキルアップのための視聴を可能とする。配信の開始時期などは本学会ホームページ及び会誌の会告で

会員に通知する。

(7) 書籍発行運営委員会（小川智也委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討する。

以下に示すガイドライン、診療ガイドラインの改訂等作業が関連のワーキンググループの中で進行中である。これらの事業は学術委員会とも連携しながら進めていく必要がある。

- ① 透析患者の糖尿病治療ガイド2025
- ② 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン
- ③ 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン
- ④ バスキュラーアクセスガイドライン追補
- ⑤ 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言
- ⑥ 透析患者の血圧管理に関する診療指針

(8) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）

台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会は、2026年度では日本透析医学会、台湾腎臓医学会、韓国腎臓学会の覚書に則して、3学会の年次学術大会を下記の通り開催する予定。

- ① 第71回日本透析医学会学術集会・総会（6月19日から21日にて開催予定、日本神戸）
テーマ：「Recent advances in management of renal anemia」

(1) 座長：

1. 日本透析医学会：倉賀野隆裕先生
2. 台湾腎臓医学会：現在台湾腎臓医学会で検討中（台湾腎臓医学会が派遣）
3. 韓国腎臓学会：Eun Hui Bae, Chonnam National University

(2) 演者・演題：

1. 日本透析医学会：小川千恵先生 前田記念病院武蔵小杉クリニック
2. 台湾腎臓医学会：現在台湾腎臓医学会で検討中（台湾腎臓医学会が派遣）
3. 韓国腎臓学会：Prof. Dae Eun Choi, Chungnam National University

- ② 韓国腎臓学会（2026年6月12日10：40～12：40開催、韓国ソウル）

テーマ：「Recent Advances and Emerging Issues in Hemodialysis

（血液透析における最近の進歩と新たな課題）」

(1) 座長：

1. 日本透析医学会：伊藤孝史先生 帝京大学ちば総合医療センター

2. 台湾腎臓医学会：台湾腎臓医学会が派遣
3. 韓国腎臓学会：韓国腎臓学会が派遣

(2) 演者：

1. 日本透析医学会：松原 雄先生 田附興風会医学研究所 北野病院
演題名：Malignancy in Hemodialysis Patients: Monitoring and Management (血液透析患者における悪性腫瘍：モニタリングと管理)
2. 台湾・韓国が担当
演題名：Atrial Fibrillation in Hemodialysis: Risks, Anticoagulation, and Clinical Outcomes (血液透析における心房細動：リスク、抗凝固療法、および臨床転帰)
3. 台湾・韓国が担当
演題名：Dialyzer Selection and Its Clinical Implications (ダイアライザーの選択とその臨床的意義)
4. 日本透析医学会：大武陽一先生 たけお内科クリニックからだと心の診療所
演題名：Depression in Hemodialysis Patients (血液透析患者のうつ病)

③ 台湾腎臓医学会 (2026 年開催、具体的日時未定、台湾台北)

テーマ：未定

(1) 座長：

1. 日本透析医学会：未定 (日本透析医学会が派遣)
2. 台湾腎臓医学会：未定 (台湾腎臓医学会理事会在が派遣)
3. 韓国腎臓学会：未定 (韓国腎臓学会理事会在が派遣)

(2) 演者：

1. 日本透析医学会：未定 (日本透析医学会が派遣)
2. 台湾腎臓医学会：未定 (台湾腎臓医学会が派遣)
3. 韓国腎臓学会：未定 (韓国腎臓学会が派遣)

(9) VA 血管内治療認定制度検討委員会 (深澤瑞也委員長)

- ① 昨年度の VA 血管内治療認定医委員会の認定作業時に生じた、様々な事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に、本年度の申請に関する改善点をまとめる。本年度の申請に対する条件を会員に可及的速やかに公表し、

本年度の申請に向けての準備を行っていたこととする。

- ② 申請作業は、既存の構築した申請システムを用いて昨年同様の秋からの申請、その後、抽出症例の提示を経て内容の審査を委員に依頼し判定を行う。専門医制度委員会審査において、個人情報保護法の遵守による審査強化を受け、当審査においても個人情報の取り扱いに関しては厳しく望むこととする。また生じた疑義に関しては、本年度の判定基準に基づき委員長が再審査し、最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行う。結果は理事会に報告し最終決定とし、本人に対して結果発表並びに認定証の交付を行うこととする。また本年度の申請においても、生じた問題点、疑義解釈に対しては、昨年度同様に委員会内で統一見解を作製し翌年度以降の委員会への申し送りを行う。

- ③ 初回登録者 (2023 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日) の更新手続きは、本来更新年度の前年度 (2027 年度) に審査となるが、もし更新できなかった場合、資格が停止することで承認デバイスが使用できなくなるなどの不利益が生じる可能性がある。このため、1 年前に初更新者のうち希望者に対して事前審査を行う予定 (委員会内で最終検討を行い公表する)。

(10) 医療 DX 推進小委員会 (菊地 勘委員長)

- 1) 透析施設における医療 DX および電子情報基盤 (EMR/EHR) の導入・活用状況に関するアンケート調査

2022 年に日本透析医学会会員施設を対象として「透析情報システムの導入状況に関するアンケート調査」を実施し、透析部門システムおよび電子カルテシステム (electronic medical record: EMR) の導入状況を把握した。

その後、医療 DX を取り巻く環境は大きく変化している。2021 年 10 月より、マイナポータルを通じて患者自身が薬剤情報および特定健診情報を閲覧できる仕組みが開始され、医療機関間での情報共有基盤の整備が進展した。さらに、2024 年度診療報酬改定において「医療 DX 推進体制整備加算」が新設され、電子健康記録 (electronic health record: EHR) を活用した情報共有体制の構築が制度的にも推進されている。

前回調査から約 4 年が経過した現在、透析施設における透析部門システムおよび電子カルテシ

テムの普及状況，ならびに EHR の活用状況を再度把握することは，透析医療における医療 DX の現状評価および今後の基盤整備・推進方策を検討する上で極めて重要である。

- ① 本事業では，日本透析医学会会員施設を対象にアンケート調査を実施し，
 - ② 透析部門システムの導入状況
 - ③ 電子カルテ（EMR）の導入状況
 - ④ EHR 基盤（オンライン資格確認，薬剤・健診情報閲覧等）の活用状況
 - ⑤ 医療 DX 推進体制整備加算への対応状況
- などを把握することを目的とする。

本調査結果を通じて，透析医療における医療 DX の課題を明確化し，将来的な標準化・データ連携・災害時情報共有体制の構築に資する基盤整備の方向性を示すことを目指す。

- 2) 2026 年の第 71 回日本透析医学会学術集会・総会における医療 DX 推進小委員会企画セッションタイトル：「医療 DX の現状と今後の方向性」

座長：

菊地 勘（医療法人社団豊済会 下落合クリニック）

阿部雅紀（日本大学 腎臓高血圧内分泌内科）

演者：

- ① 実臨床における医療 DX の現状と透析医療 DX の方向性
菊地 勘（医療法人社団豊済会 下落合クリニック）
- ② HL7 FHIR による臨床検査データなどの標準化
岡田美保子（一般社団法人医療データ活用基盤整備機構）
- ③ 透析施設における医療 DX の活用
宮崎真理子（東北大学腎臓内科学）
- ④ 医療 DX の取組について
新畑覚也（厚生労働省医政局医療情報担当参事官付医療情報室）

2. 財務委員会

平成 20 年 12 月に新公益法人制度が施行され，これに伴い本学会も平成 24 年 9 月 3 日付けをもって，一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成 20 年度改正の新・新公益法人会計基準に則り，新・新基準による経理を実施し，貸

借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして，より適切な財務管理を目指す。

以上を踏まえて，税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し，学会として各常置委員会，小委員会の諸事業を積極的に推進し，多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

3. 編集委員会

- 1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊，年間 12 冊をオンラインで発行する。
- (2) Year in Review 2025 の原稿を受け，2026 年和文誌 59 巻のしかるべき号に掲載する。
- (3) 統計調査委員会年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を 2026 年和文誌 59 巻 12 号に掲載する。
- (4) 学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement としてオンラインで発行する。冊子体の発行および郵送の廃止は継続とする。
- (5) 年間 1 回を目安として特集号を企画する。また，Invited Review という形でその領域の専門家に依頼し，掲載していく。
- (6) 2025 年度からの完全オンライン化を継続する（2024 年末で冊子体の発行を廃止した）。

- 2) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で，CC-BY の版權で引き続き発行する。
- (2) 2023 年 6 月に Journal Citation Reports (JCR) の Impact Factor を取得した。PubMed Central での Index 化の再申請を 2023 年中に行ったが，不採択の審査結果であった。2026 年度内に再申請を行う。
- (3) RRT 誌は下記の 9 学会の公式英文誌となっている。これらの各学会のガイドラインや報告レポートなどを Position Paper として順次出版する。
 - ・Japanese Society for Dialysis Therapy (JSDT)
 - ・Japanese Society for Clinical Renal Transplantation (JSCRT)
 - ・Japanese Society for Peritoneal Dialysis (JSPD)
 - ・Japan Society for Blood Purification in Critical Care (JSBPCC)
 - ・Japanese Society of Renal Rehabilitation (JSRR)

- ・ Japanese Society of Nephrology and Pharmacotherapy (JSNP)
 - ・ Japanese Society for Pediatric Renal Failure (JSPRF)
 - ・ Japan Academy of Nephrology Nursing (JANN)
 - ・ Japanese Society for Technology of Blood purification (JSTB)
- (4) すでに採用済の海外からの Editorial Member を Advisory Board Member として引き続き編集業務の関与を依頼する。
 - (5) Impact Factor 取得後、投稿論文数が増加した。そのため Editorial Member の増員が必要な状況であり、採用各学会に人材の推薦を依頼するとともに、独自にも Editorial Member (Associate Editor および Editorial Board) を採用していく。
 - (6) 第 71 回日本透析医学会学術集会・総会において、台湾腎臓学会・韓国腎臓学会・日本透析医学会の 3 学会合同シンポジウムが、開催される予定である。その各国の講演内容を論文投稿していただくよう交渉する。
 - (7) 250 編の投稿を目標とし、本邦以外の国と地域からの投稿促進努力を行う。
 - (8) 年間掲載論文の研究内容および英文の質の向上を追求する。その結果として、アクセプト率の低下も許容する。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。

3) 栄養問題検討ワーキンググループ（神田英一郎グループ長）

課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査 (SUDACHI STUDY)

大塚製薬工場との多機関共同臨床研究 (SUDACHI STUDY) を継続する。また、これまで得られたベースラインデータの解析結果および最新の文献データを、第 71 回日本透析医学会学術集会・総会において、ワーキンググループ企画「透析患者の栄養

摂取に関する最新のエビデンス」として発表予定である。

課題② 第 72 回日本透析医学会学術集会・総会でのワーキンググループ企画を検討する。

SUDACHI STUDY の進捗、透析患者の栄養摂取基準に関する文献的調査結果を、第 72 回日本透析医学会学術集会・総会で発表するため、ワーキンググループ企画を検討する。

4) 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン改訂ワーキンググループ（倉賀野隆裕グループ長）

慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドラインの原案を理事会に提出後、公聴会とパブリックコメントを経て、本年中にホームページ及び透析会誌に発表する予定である。

5) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ（脇野 修グループ長）

改訂ガイドラインを日本透析医学会雑誌に掲載するとともに英文化を行う。

第 71 回日本透析医学会学術総会・集会においてこれを学会員に広く公表する。

6) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ（阿部雅紀グループ長）

「透析患者の糖尿病治療ガイド 2025」の英文版を RRT 誌へ投稿する。これをもって本ワーキンググループは解散となる。

7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

シャント系、カフ型カテーテルの各班の意見集約、並びに素案の作成を行い、残りの班の素案をお互いに修正を行う。また現ガイドラインには大きく修正は行わないものの、現状にそぐわない点の修正・追記をまとめる。その後理事会承認、パブリックコメントへ回す。

8) 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会（酒井 謙委員長）

作成委員会は、第 69 回日本透析医学会学術集会・総会において、第 1 回の Official な会議を経て、構成メンバーの拡充に努め、現在まで第 19 回までの議事が進行した。

主目的は CKM 決定後の緩和ケアにおける具体的な医療とケアの実際を作り上げることにある。現行 30 数名の各代表（学会、協会、患者団体、弁護士等）で、各月 1 回の会議を経て、さらに理事会承認を経て、提言作成に向かい会議を継続する。CKM においては KSC などの新しい概念も入り、かつ 2025 年

9月には関連3学会による腎不全患者の緩和ケアガイドランスも作成された。令和8年の診療報酬体系も定まれば、大きな進展を経て、社会に公表できると考える。

2024年度 文献調査 役割分担(研究協力員)、COI、提言タイトルの妥当性検討をした。

2025年度 提言各章文章作成して、第70回日本透析医学会学術集会・総会で学会報告第1回を行った。

2026年度 提言和文完成 第71回日本透析医学会学術集会・総会で学会報告第2回を経て、公聴会パブリックコメントを得て、和文投稿へ。

2027年度 英文投稿へ。

9) 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会(平和伸仁委員長)

1. 2026年末の統計調査委員会調査に向けた準備；対応可能な項目の申請等の検討と依頼
2. 臨床課題に対するCQに関して
(ア) 課題に関する定義やエビデンスの整理
(イ) とりまとめとSR可能なCQの選択
(ウ) SR体制の検討と募集
3. 第71回日本透析医学会学術集会・総会でのシンポジウム開催
4. 透析患者の家庭血圧における前向きコホート研究計画策定
5. 統計調査資料を用いた後ろ向き研究の研究計画策定

10) Green Dialysisに関する検討委員会(脇野 修委員長)

2025年3月14日に全体の対面委員会を開催後、各班薬物療法班(班長 脇野委員)と医療機器班(班長 友委員)で項目ごとに提言をまとめる。年2回の合同委員会をもとに最終的には第71回日本透析医学会学術集会・総会で素案を発表する。

11) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会(小岩文彦委員長)

1. Dialysis Therapy, 2025 year in reviewを第71回日本透析医学会学術集会・総会において委員会企画として開催を計画している。
2. Dialysis Therapy, 2025 year in reviewの各演者の先生に発表内容を日本透析医学会誌へ投稿依頼する。
3. 統計調査データを用いた公募研究の事前審査について

2025年より統計調査データを用いた公募研究の募集が再開された。学術専門部小委員会は2025年度に引き続いて統計調査解析小委員会と合同で

事前審査を実施し、主に学術的な意義について審査を担当する予定である。

(2) 血液浄化に関連する新技術検討小委員会(山下明泰委員長)

1. 昨年に引き続き、第71回日本透析医学会学術集会・総会(令和8年6月)においても委員会で議論した成果を、委員会企画「腎代替療法にグリーンな活力をもたらす新技術」で公表する。
2. 同じ方向性を持つ他学会(日本人工臓器学会、日本次世代人工腎臓研究会など)において、研究成果の積極的な公表に努める。
3. 学会からの活動資金の有効かつ公平な利用法についても検討する。
4. 令和7年度は多くの学会で発表の場を得たことで、委員会活動はオンラインで1回しか行えなかったもので、これを2回開催に戻す。

(3) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会(友 雅司委員長)

- ① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE(日本臨床工学技士会)との3団体共同「透析排液管理ワーキンググループ(峰島三千男グループ長)」: 透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果に関する啓発活動を行う。
- ② ISO・IEC対策ワーキンググループ(川西秀樹グループ長): 日本の見解を反映させるべくISO・IEC会議に委員を派遣し討議を行う。
- ③ ダイアライザの機能分類等について、第71回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画を開催する。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会(鷺田直輝委員長)

① 体験参加型セッションの開催

第32回日本腹膜透析医学会にて、医師・コメディカルスタッフの教育に関する体験参加型セッションの開催を計画している。

- ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催を計画している。

2026年度の第71回日本透析医学会学術集会・総会にて、医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題と題したセミナーを開催予定である。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会(脇野 修委員長)

例年通りの方法で、令和8年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請の受付を行い、適切

な応募研究課題の中から選考する。

- (6) 透析医学用語集作成小委員会(脇野 修委員長)
ICD-10からICD-11への変更への対応を行う。
この変更に合わせて、関連学会を含め、用語変更について会議を行う。さらに各学術委員会で追加すべき新用語を提案頂く。

5. 統計調査委員会

- 1) 2025年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告
 - (1) 2025年調査結果を2025年学会誌12号に、英文報告書をRRT誌に掲載する。
 - (2) 本学会和文、英文のホームページに調査結果を掲載する。
 - (3) 2025年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム、学術研究用データ切出しシステムに取り込む。
 - (4) 調査協力いただいた非会員施設には、これまで「わが国の慢性透析療法の現況CD-ROM版」を作成し配布していたが、CD-ROMの発行を止め、学会ホームページ内の「統計調査」に関するサイトで閲覧いただく。
- 2) 2026年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施
 - (1) 2026年末調査の新規調査項目を選定する。
 - (2) 2026年末の調査計画について倫理委員会に審査を依頼し、承認後UMINに公開する。
 - (3) 全国の透析施設に対して2026年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施する。
- 3) 学術研究用データ切出しシステムの改善
 - (1) 学術研究用データ切出しシステムに、項目の自動指定機能を追加する。
 - (2) 学術研究用データ切出しシステム用サーバの計算領域と利用領域容量を増やす。
 - (3) 学術研究用データ切出しシステム用に、一部修正した2000～2017年データの再取込を行う。
- 4) 統計調査データを活用した研究活動の推進・論文化
 - (1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行い、日本人のエビデンスの構築を行い、将来のガイドライン作成等に備える。
 - (2) 公募研究を行い、特に若手研究者の統計調査データを用いた研究への参画を進める。
- 5) レジストリ国際協調への課題の明確化(継続事業)

- (1) ISN主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトであるSharE-RRへ参加する。
 - (2) 国際レジストリ協調に求められる要件の明確化、JRDRの将来の改修方針の明確化。
- 6) 第71回日本透析医学会学術集会・総会における以下のセッションの開催
 - (1) 統計調査委員会企画:1. WADDAシステムの活用, 2. JSDT統計調査データを用いた臨床研究
- 7) 国内・国際協力の推進
 - (1) 日本透析医会をはじめとした他学術団体、さらにはUnited State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/ European Dialysis Transplantation Association等の海外レジストリと連携し、データ供与や解析を行う。
- 8) 学会ホームページ内の統計調査に関するサイトの充実
 - (1) 日本透析医学会ホームページに「統計調査」に関するサイトを作成し、これまでホームページ内に点在していた統計調査に関する情報を集約して掲載する。入力用Excelファイルのダウンロード・アップロードシステムや集計結果の詳細等もこのサイトの中に設置し、内容の充実をはかる。
 - (2) 日本透析医学会の統計調査の海外への発進力を高めるために、英語版統計調査のホームページを充実させる。
 - (3) 英語版ホームページには英語版現況報告のPDF、英語版図説PPT、統計調査の歴史やシステム、これまでに発表された論文一覧などを提示する。
- 9) 会員インセンティブの充実
 - (1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため、地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
 - (2) 帳票出力システムの利用を推進する。
- 10) WEBを活用した統計調査データの収集について
 - (1) EDCの開発に関してEDC推進検討ワーキンググループと連携し継続して審議を行う。
 - (2) 入力用Excelファイルのダウンロード・アップロードシステムについて、アクセス管理に関する仕組みを改良する。
 - (3) 入力用Excelファイルのダウンロード・アップロードシステムと会員管理台帳の連携システムの改良を行う。

解析小委員会

- 1) 各小委員は既存データベースを用いて、慢性透析医療の将来に必要とされる様々なテーマについて解析を行い学会報告、論文化を行う。
- 2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ、委員会に審議を依頼する。
- 3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し、相互にブラッシュアップする。
- 4) 公募研究のサポート、進捗の確認を行う。
- 5) JRDR のデータを用いた研究を論文化する際に、研究計画と齟齬がないか確認を行う。

6. 専門医制度委員会

透析専門医は、大学病院や基幹病院へ集中する傾向が強い他領域の専門医とは異なり、全国の透析施設すべてに1名以上の勤務配置することを目標とする。基本知識・診療技術は勿論、手術・処置技術・倫理・医療安全・感染対策・災害対策などに対する総合的な能力を身に付けることを第1義とする。内科・泌尿器科の垣根を越えた総合診療により、患者とともに長期間診療を行う専門医制度がむしろ必要である。基本領域とサブスペ領域の専門研修カリキュラムとの調和は、腎臓機能を失ったうえでの特殊な診療技能にて、補完研修ではなく独立した通常研修に該当すると考える。

- 1) 透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることとは別に、現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。
- 2) 生涯教育の一環として、全国を細則第2条の10地区に分け、年1回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業経費から助成金を支給する。
- 3) 透析専門医は、日本内科学会と日本泌尿器科学会との透析領域別協議会（小委員会）で、基本領域専門医を透析医療と関連が深い横断的6領域（総合内科専門医、泌尿器科専門医、外科専門医、小児科専門医、救急専門医、総合診療専門医）のサブスペシャリティ領域として、専門研修カリキュラムを改訂（2027年）する。カリキュラム必要条件は100症例（必須60症例）、専攻医の主体的な研修の場が必要（診療部門）、かつ統一した試験問題が必要（機構要求）である。2025年のサブスペ領域懇談会であるが、2025年9月に機構が応募した質問（サブスペに対す

る）に対する本学会への回答を今だ得ていないので、領域別懇談会はできていない状況である。したがって現在、日本透析医学会では機構の変化に留意しつつ、機構からは距離を置いた姿勢に転じている。

- 4) 産前・産後の研修期間の短縮許可について審議したので、2025年から適応する。常勤医師の定義認定も、昨今の働き方改革によって、これを短縮し、2026年度以降から適応する。
- 5) 個人情報保護法抵触について、審査の対象となる旨、審議を重ねたが、その周知を徹底しつつ、専門医試験においては症例要約において厳格にこれを要求する（規則施行細則第23条に追記した）。
- 6) カリキュラム小委員会（平和伸仁委員長）では、2025年に専門研修トレーニング問題集および専門研修マニュアルの改訂発行をした。研修カリキュラム・プログラムも変更する。次回改訂は2027年を予定する。なおその試験問題の在り方に関しては、2026年3月に委員会内で審議をした。
- 7) 専門医制度の今後について

委員会報告を行う予定（日本透析医学会および日本透析医学会誌）。

- 8) 各小委員会で整備した内容について検討する。
 - (1) 研修プログラム小委員会
 - ① 基本領域専門医制度と連携した透析研修カリキュラム第5版の作成を検討する。
 - (2) カリキュラム小委員会
 - ① 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。この「セルフトレーニング問題」は長らく紙媒体での往復書簡のやり取りであったが、2026年からは電子媒体で申請、回答、回答処理を行う。その費用支払い方法も2026年から変更をする。
 - ② 学術集会・総会の教育講演オンデマンド視聴による単位認定のためのeラーニング問題についてのブラッシュアップを行う。
 - (3) 専門医認定小委員会
 - ① 専門医と指導医の新規認定と更新を行う。
 - ② 専門医認定制度に係る諸問題（適正な専門医数、専門医の地域偏在）をワーキンググループで検討を継続する。

- ③ 地域偏在・施設偏在の解消のために、専門医数と施設数が少ない地域の基幹病院に調査を行い、立案した具体策について、偏在を解消する方策を個別に検討する。
- (4) 専門医試験小委員会
 - ① 2026 年度専門医試験を適切な感染対策のもと実施する。
 - ② 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、倫理・安全対策・感染対策・災害対策に関する問題を含む客観式筆記試験（問題形式は A タイプ、X2 タイプ）と口答試験の 3 者の総合的な判断で行い、医師国家試験に準拠した試験問題作成基準を用意し、可否を決定する予定である。口頭試験検査官の体制はコロナ禍以降、2 名体制であるがその仕組みは定着し、今後も 1 名の受験者に対して 2 名体制とする。
 - ③ 専門医試験プール問題約 800 題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率 50～70%かつ識別指数 0.2～0.4 以上）をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、写真や図表問題も多くする予定である。
- (5) 施設認定小委員会
 - ① 認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。
 - ② 今後の透析専門医認定に備えて、専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成をさらに進める。施設認定においては、専門医不在などの問題について、厳に対応する。

7. 国際学術交流委員会

- 1) 第 71 回日本透析医学会学術集会・総会において下記の企画を予定した。
 - I. 特別講演：Prof. Kalantar-Zadeh Kamyar (Harbor-UCLA Medical Center) を予定。
The Importance of Residual Renal Function in Hemodialysis Patients and Methods for Maintaining It.(仮)
 - II. シンポジウム。以下の 2 つのシンポジウムを実施予定であり、すべて指定講演とした。
シンポジウム (1)：Disaster Preparedness for Dialysis Patients: Focusing on Everyday Measures.
シンポジウム (2)：The Insurance Framework for Dialysis Patients

III. 一般公演 (Free Communications)

例年通り、公募を行った。

IV. Farewell Reception

海外からの参加者、演者、国際交流委員、日本透析医学会評議員などの学術交流の場として、大会期間に Farewell party を開催予定である。

V. Travel Grant 等

シンポジストの招聘および Farewell Reception 開催などの予算の関係上 lower-middle income countries or low-income countries 10 万円、upper-middle-income countries or high-income countries は 5～7 万円となった。年齢制限等の条件については例年通りとなった。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は予定していない。

3) その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加する予定である。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は 2 年であるため、2026 年度は選出を行わない (2025 年度施行)。

9. 保険委員会

- 1) 今後も学会ホームページなどから会員の診療報酬の要望を受け付けることを継続する。
- 2) 令和 10 年度診療報酬改定に向けて具体的な要望内容を決定し、必要に応じて準備を進める。手術系であればタイムスタディー等も施行し適切な診療報酬の策定に向けての要望提出準備。
- 3) 日本透析医会とも緊密に連携を取り、診療報酬の適正化による会員の安定した利用提供に寄与するべく活動する。

10. 倫理委員会

- 1) 日本透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 日本透析医学会として対応すべき研究倫理に関する課題に対して、随時、研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱いをするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

11. 腎不全総合対策委員会

1) 本委員会では腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者のQOLの改善、地域の問題などに焦点をあて、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2026年度は高齢者の腎不全対策をテーマに、高齢透析導入や透析ケアの緩和医療の方向性、ポリファーマシー、高齢透析患者の看護について6名の演者に開設いただく予定である。

1. 高齢透析導入患者の予後 大分赤十字病院 宮崎慎也先生
2. 腹膜透析 聖マリアンナ医科大学 櫻田 勉先生
3. 高齢透析の看護 昭和医科大学認定看護師教育センター 三村洋美先生
4. ポリファーマシー 日高病院腎臓病治療センター 永野伸郎先生
5. リハビリテーション 偕行会名古屋共立病院 リハビリテーション部 森山善文先生
6. 透析患者の緩和医療の方向性 東邦大学 酒井 謙先生

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

- (1) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う。
- (2) 医療安全、災害対策に関して、日本透析医会、日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会などの関連団体と緊密に連携する。

2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

- (1) 第71回日本透析医学会学術集会・総会（2026年6月19日～21日、神戸ポートピアホテル）において、災害に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「大規模地震時医療活動訓練の経験と課題」とし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめ、透析会誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦，山川智之

演題・演者

- 1) 北海道における大規模地震時医療活動訓練 札幌北楡病院外科 後藤順一
- 2) 青森県における大規模地震時医療活動訓練 青森県立中央病院泌尿器科 小笠原賢
- 3) 岩手県における大規模地震時医療活動訓練 岩手県立胆沢病院泌尿器科 忠地一輝

- 4) 宮城県における大規模地震時医療活動訓練 泉松会 木村朋由

- 5) 東京都における大規模地震時医療活動訓練 石川記念会 安藤亮一

- 6) 静岡県における大規模地震時医療活動訓練 浜松医科大学医学部附属病院血液浄化療法部 石垣さやか

- (2) 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年）の委員会企画の発表内容を日本透析医学会誌へ掲載する。

- (3) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。

3) 医療安全対策小委員会（満生浩司小委員長）

- (1) 第71回日本透析医学会学術集会・総会（2026年6月19日～21日、神戸ポートピアホテル）において、医療安全に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「次亜塩素酸ナトリウム溶液と酸性溶液の誤混入による塩素ガス発生事故に関する全国透析施設の実態調査」とし、以下の内容で行う。

司会：鶴屋和彦，満生浩司

演題・演者

- 1) 日本透析医学会の立場から 九州中央病院腎臓内科 満生浩司

- 2) 日本臨床工学技士会の立場から 善仁会 本間 崇

- 3) 日本血液浄化技術学会の立場から 神奈川工科大学臨床工学科 山家敏彦

- (2) 上記実態調査の内容を委員会報告としてまとめ、透析会誌に掲載する。

- (3) 医療事故調査報告制度に協力団体として、センター調査などを担当する。

- (4) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し、必要に応じて委員の更新を行う。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

企業からの学会および学術集会に対する資金提供についての組織COI公開・開示について議論を進める。

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療法学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会、女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況、展望についての論文が掲載されたばかりであり、今年度は問題点などの情報共有などを行う。

2) 小委員会

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療法学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会のそれぞれの働き方について各学会の経緯と現状と検討する。

(2) 女性医師育成小委員会

I. 学会・委員会企画「TSUBASA PROJECT」について

第71回日本透析医学会学術集会・総会において、学会・委員会企画7として、「TSUBASA PROJECT」を開催する。

・TSUBASA PROJECT 賞6題の中から優秀演題賞3演題を選出する。

II. 第11回「TSUBASA PROJECT」について

第11回「TSUBASA PROJECT」を公募した。「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励、援助し、それによって透析医療の向上、女性の活躍を推進させることを目的とし、優れた研究に対して研究助成を行うものである。

第11回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会にTSUBASA PROJECT 賞として応募された抄録から、優れた演題6件を選出する。抄録は日本語、800文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い、理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行する。

① 応募研究：透析医療に関する基礎研究、臨床研究、未発表論文であること。

抄録は日本語、800文字まで（抄録の最後に文字数を記載すること）。

背景、目的、方法、結果、考察を記載すること。

文字カウントは、日本透析医学会学術集会・総会の演題募集要項に準じる（スペースは1文字の扱いとする。半角文字は1/2文字とし

て数える。アルファベットは半角英数の扱いとなる。）。

② 応募資格：日本透析医学会正会員の45歳以下の女性医師

＜他機関の助成中、または助成を受けている場合は当研究の申請は認められない＞

過去にTSUBASA PROJECT 賞の受賞歴のある場合は、受賞回、題目について記載すること。

③ 応募演題：6件まで

④ 選出報告：当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。研究助成として、1件につき10万円を授与する。

⑤ 優秀演題賞：選出した6件の発表内容から、さらに優秀な3演題を選出し、特別研究助成10万円を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い、理事会の承認を得る。

⑥ 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT 賞で選出した6件が、2年以内に英文論文化した場合には（日本透析医学会の英文機関誌Renal Replacement Therapy への投稿を推奨する）、30万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお、論文化に際してTSUBASA PROJECT の助成を受けたことに対する謝意を明記すること。

※注意：論文化支援助成金申請のためには、研究に関係する支出（研究費、英文校正、論文投稿料など）に関する領収書の提出が必要となりますので、領収書の保管をお願いします。

⑦ TSUBASA PROJECT 賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

※応募方法については、第72回日本透析医学会学術集会・総会のホームページに掲載されますので、しばらくお待ちください。

一般社団法人日本透析医学会

理事長 友 雅司

男女共同参画推進委員会委員長 西尾 妙織

Ⅲ. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第71回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をする。

Ⅳ. TSUBASA PROJECT 賞を獲得した女性医師のその後の調査

今年でTSUBASA PROJECT は10年を迎える。

これまで受賞した女性医師がその後、どのように活躍しているかのアンケートを行い、ホームページに掲載する。内容によっては論文も検討する。

15. 感染対策委員会

- 1) 透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケートの調査結果について

2025 年度に実施した「透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケート」の調査結果について、統計学的解析を行い、査読付き国際学術誌へ原著論文として投稿する。

- 2) 2026 年の第 71 回日本透析医学会学術集会・総会における感染対策委員会企画

第 71 回日本透析医学会学術集会・総会では、日本呼吸器学会との合同企画シンポジウムと 2 つの感染対策委員会企画を行う予定としている。

合同企画シンポジウム 日本呼吸器学会・日本透析医学会 合同企画

セッションタイトル：「透析患者における肺炎球菌ワクチン接種の意義と推進」

座長：

菊地 勘（日本透析医学会，医療法人社団豊済会 下落合クリニック）

大石和徳（日本呼吸器学会，富山県衛生研究所）

演者：

1. 成人肺炎球菌感染症の現状と肺炎球菌ワクチンによる予防
中村茂樹（日本呼吸器学会，東京医科大学微生物学分野）
2. 透析患者における肺炎球菌ワクチン接種の意義
吉藤 歩（日本透析医学会，慶應義塾大学感染症学教室）
3. 肺炎球菌ワクチン接種率向上に向けたエビデンスと実践
永井英明（日本呼吸器学会，国立病院機構 東京病院）

感染対策委員会企画

セッションタイトル：「透析患者におけるウイルス感染症の最新知見」

座長：

菊地 勘（医療法人社団豊済会 下落合クリニック）

竜崎崇和（東京都済生会中央病院）

演者：

1. 肝炎ウイルスの現状と対策
菊地 勘（医療法人社団豊済会 下落合クリニック）
2. 透析患者における帯状疱疹の疫学と予防戦略
平山浩一（東京医科大学茨城医療センター）
3. RS ウイルス感染症の最新知見と対策
吉藤 歩（慶應義塾大学）
4. ノロウイルスの現状と対策
美島路恵（東京慈恵会医科大学附属病院）
5. COVID-19・インフルエンザの現状と予防～日本透析医学会 感染対策委員会アンケート調査を踏まえて～
吉藤 歩（慶應義塾大学）
6. 新興感染症のパンデミックにどう備えるか
石金正裕（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター）

セッションタイトル：「透析患者における耐性菌と感染対策」

座長：

安藤亮一（医療法人社団石川記念会）

吉藤 歩（慶應義塾大学）

演者：

1. 透析室における感染対策の基本
谷口弘美（医療法人財団松園会 東葛クリニック病院）
2. 透析患者における MRSA
上原由紀（順天堂大学医学部 臨床検査医学科／総合診療科）
3. カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CPE）
原田壮平（東邦大学医学部 微生物・感染症学講座）
4. クロストリディオイデリス・ディフィシル感染症
増谷 瞳（慶應義塾大学病院 感染制御部）
5. 抗菌薬の適正使用
森兼啓太（山形大学医学部附属病院 検査部・感染制御部）

令和 7 年度決算報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

貸借対照表

令和 8 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	849,351,440	835,600,288	13,751,152
未収金	14,390,656	17,805,556	△ 3,414,900
前払金	8,451,811	22,287,180	△ 13,835,369
流動資産合計	872,193,907	875,693,024	△ 3,499,117
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2) 特定資産			
学術集会積立資金	40,000,000	40,000,000	0
国際交流援助積立資金	30,000,000	30,000,000	0
災害援助事業積立資金	35,000,000	35,000,000	0
コメディカルスタッフ研究助成資金	80,000,000	80,000,000	0
60 周年記念資金	25,000,000	25,000,000	0
特定資産合計	210,000,000	210,000,000	0
(3) その他固定資産			
什器備品	2,341,030	2,341,030	0
減価償却累計額	△ 2,341,028	△ 2,236,107	△ 104,921
電話加入権	224,952	224,952	0
ソフトウェア	7,033,035	12,305,610	△ 5,272,575
保証金	8,899,770	8,899,770	0
腎代替療法医療専門職推進協会基金	20,000,000	20,000,000	0
その他固定資産合計	36,157,759	41,535,255	△ 5,377,496
固定資産合計	346,157,759	351,535,255	△ 5,377,496
資産合計	1,218,351,666	1,227,228,279	△ 8,876,613
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	15,307,114	15,185,182	121,932
前受金	21,251,605	89,210,010	△ 67,958,405
預り金	801,302	710,740	90,562
賞与引当金	4,731,765	4,849,270	△ 117,505
未払法人税等	10,762,800	12,458,900	△ 1,696,100
未払消費税等	2,502,000	2,983,700	△ 481,700
流動負債合計	55,356,586	125,397,802	△ 70,041,216
2. 固定負債			
退職給付引当金	39,642,393	35,097,977	4,544,416
固定負債合計	39,642,393	35,097,977	4,544,416
負債合計	94,998,979	160,495,779	△ 65,496,800
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	1,123,352,687	1,066,732,500	56,620,187
(うち特定資産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(210,000,000)	(210,000,000)	(0)
正味財産合計	1,123,352,687	1,066,732,500	56,620,187
負債及び正味財産合計	1,218,351,666	1,227,228,279	△ 8,876,613

貸借対照表内訳表

令和 8 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	141,623,923	10,560,790	697,166,727		849,351,440
未収金	12,244,965	0	2,145,691		14,390,656
前払金	8,451,811	0	0		8,451,811
流動資産合計	162,320,699	10,560,790	699,312,418		872,193,907
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
定期預金	0	0	100,000,000		100,000,000
基本財産合計	0	0	100,000,000		100,000,000
(2) 特定資産					
学術集会積立資金	40,000,000	0	0		40,000,000
国際交流援助積立資金	30,000,000	0	0		30,000,000
災害援助事業積立資金	35,000,000	0	0		35,000,000
コメディカルスタッフ研究助成資金	0	80,000,000	0		80,000,000
60周年記念資金	25,000,000	0	0		25,000,000
特定資産合計	130,000,000	80,000,000	0		210,000,000
(3) その他固定資産					
什器備品	1,521,675	0	819,355		2,341,030
減価償却累計額	△ 1,521,675	0	△ 819,353		△ 2,341,028
電話加入権	224,952	0	0		224,952
ソフトウェア	6,539,800	0	493,235		7,033,035
保証金	8,899,770	0	0		8,899,770
腎代替療法医療専門職推進協会基金	0	0	20,000,000		20,000,000
その他固定資産合計	15,664,522	0	20,493,237		36,157,759
固定資産合計	145,664,522	80,000,000	120,493,237		346,157,759
資産合計	307,985,221	90,560,790	819,805,655		1,218,351,666
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	13,830,672	0	1,476,442		15,307,114
前受金	21,251,605	0	0		21,251,605
預り金	320,036	0	481,266		801,302
賞与引当金	2,812,925	0	1,918,840		4,731,765
未払法人税等	10,762,800	0	0		10,762,800
未払消費税等	2,502,000	0	0		2,502,000
流動負債合計	51,480,038	0	3,876,548		55,356,586
2. 固定負債					
退職給付引当金	29,345,602	0	10,296,791		39,642,393
固定負債合計	29,345,602	0	10,296,791		39,642,393
負債合計	80,825,640	0	14,173,339		94,998,979
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	0		0
2. 一般正味財産					
(うち基本財産への充当額)	227,159,581	90,560,790	805,632,316		1,123,352,687
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(100,000,000)		(100,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(130,000,000)	(80,000,000)	(0)		(210,000,000)
正味財産合計	227,159,581	90,560,790	805,632,316		1,123,352,687
負債及び正味財産合計	307,985,221	90,560,790	819,805,655		1,218,351,666

正味財産増減計算書

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	108,052	2,275	105,777
基本財産受取利息	108,052	2,275	105,777
特定資産運用益	478,892	73,781	405,111
特定資産受取利息	478,892	73,781	405,111
受取会費	257,850,187	277,158,713	△ 19,308,526
正会員受取会費	128,320,000	147,018,900	△ 18,698,900
施設会員受取会費	124,530,187	124,739,813	△ 209,626
賛助会員受取会費	5,000,000	5,400,000	△ 400,000
事業収益	517,088,427	556,589,995	△ 39,501,568
論文掲載料収益	3,300,000	3,531,000	△ 231,000
広告掲載料収益	686,400	8,682,795	△ 7,996,395
特別号頒布収益	0	198,000	△ 198,000
転載許諾料収益	3,553,000	2,310,000	1,243,000
受取参加費収益	238,009,000	225,996,000	12,013,000
受取展示会費収益	106,146,027	120,002,300	△ 13,856,273
受取広告料収益	8,173,000	12,208,900	△ 4,035,900
受取セミナー共催費収益	100,089,000	103,730,000	△ 3,641,000
専門医申請料（新規）収益	9,300,000	8,310,000	990,000
専門医申請料（更新）収益	18,240,000	18,640,000	△ 400,000
指導医申請料（新規）収益	860,000	780,000	80,000
指導医申請料（更新）収益	4,040,000	3,830,000	210,000
専門医登録料（新規）収益	4,980,000	4,540,000	440,000
専門医登録料（更新）収益	15,060,000	38,080,000	△ 23,020,000
セルフトレーニング問題手数料収益	3,450,000	4,058,000	△ 608,000
VA 血管内治療認定医申請料（新規）収益	980,000	1,057,000	△ 77,000
VA 血管内治療認定医登録料（新規）収益	222,000	636,000	△ 414,000
受取補助金等	5,289,205	11,099,000	△ 5,809,795
受取補助金	0	1,000,000	△ 1,000,000
受取民間助成金	5,289,205	10,099,000	△ 4,809,795
受取寄付金	9,785,000	6,500,000	3,285,000
受取寄付金	9,785,000	6,500,000	3,285,000
雑収益	5,041,259	4,019,248	1,022,011
受取利息	1,539,038	430,337	1,108,701
雑収益	3,502,221	3,588,911	△ 86,690
経常収益計	795,641,022	855,443,012	△ 59,801,990
(2) 経常費用			
事業費	669,778,652	738,592,982	△ 68,814,330
給料手当	31,158,487	32,075,526	△ 917,039
退職給付費用	3,100,449	1,728,331	1,372,118
福利厚生費	4,873,688	5,098,639	△ 224,951
会議費	12,778,579	17,821,018	△ 5,042,439
旅費交通費	34,915,941	32,317,387	2,598,554
通信運搬費	15,539,935	40,946,705	△ 25,406,770
広告掲載費	11,224,730	16,656,464	△ 5,431,734
減価償却費	6,245,250	5,858,581	386,669
消耗品費	1,402,314	1,695,414	△ 293,100
印刷製本費	36,916,050	129,991,459	△ 93,075,409
光熱水料費	339,566	352,806	△ 13,240
賃借料	203,652,570	114,302,339	89,350,231
諸謝金	15,323,782	11,144,996	4,178,786
租税公課	8,209,800	7,598,800	611,000
支払負担金	3,798,900	3,851,550	△ 52,650
支払助成金	3,321,300	3,641,000	△ 319,700
支払寄付金	1,050,000	0	1,050,000
委託費	265,090,020	308,767,369	△ 43,677,349
雑費	10,837,291	4,744,598	6,092,693
管理費	58,409,383	50,493,038	7,916,345
給料手当	21,510,587	21,109,802	400,785
退職給付費用	1,443,967	1,263,299	180,668
福利厚生費	3,581,198	3,576,919	4,279
会議費	740,136	655,030	85,106
旅費交通費	2,913,389	3,138,629	△ 225,240
通信運搬費	4,836,719	1,576,055	3,260,664
減価償却費	1,392,746	1,504,041	△ 111,295
消耗品費	528,831	573,863	△ 45,032
印刷製本費	3,192,480	1,846,740	1,345,740
光熱水料費	181,444	188,644	△ 7,200
賃借料	3,954,678	3,688,911	265,767
諸謝金	4,466,000	4,430,930	35,070
租税公課	920	14,231	△ 13,311
委託費	4,529,490	1,790,820	2,738,670
雑費	5,136,798	5,135,124	1,674
経常費用計	728,188,035	789,086,020	△ 60,897,985
評価損益等調整前当期経常増減額	67,452,987	66,356,992	1,095,995
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	67,452,987	66,356,992	1,095,995
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	67,452,987	66,356,992	1,095,995
法人税、住民税及び事業税	10,832,800	12,458,900	△ 1,626,100
当期一般正味財産増減額	56,620,187	53,898,092	2,722,095
一般正味財産期首残高	1,066,732,500	1,012,834,408	53,898,092
一般正味財産期末残高	1,123,352,687	1,066,732,500	56,620,187
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,123,352,687	1,066,732,500	56,620,187

正味財産増減計算書内訳表

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位：円)

科 目	実施事業等会計					その他会計			法人会計	内部取引等消去	合 計
	学術雑誌発行	統計調査	専門医等認定	学術集会等開催	災害援助	小 計	学会費等付与	研究助成			
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	108,052		108,052
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	108,052		108,052
特定資産運用益	0	0	0	201,127	74,099	275,226	0	203,666	0		478,892
特定資産受取利息	0	0	0	201,127	74,099	275,226	0	203,666	0		478,892
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	257,850,187		257,850,187
正会費受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	128,320,000		128,320,000
施設会費受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	124,530,187		124,530,187
賛助会費受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	5,000,000		5,000,000
事業収益	7,539,400	0	57,132,000	452,417,027	0	517,088,427	0	0	517,088,427		517,088,427
論文掲載料収益	3,300,000	0	0	0	0	3,300,000	0	0	3,300,000		3,300,000
広告掲載料収益	686,400	0	0	0	0	686,400	0	0	686,400		686,400
転載許諾料収益	3,553,000	0	0	0	0	3,553,000	0	0	3,553,000		3,553,000
受取参加費収益	0	0	0	238,009,000	0	238,009,000	0	0	0		238,009,000
受取展示会費収益	0	0	0	106,146,027	0	106,146,027	0	0	0		106,146,027
受取広告料収益	0	0	0	8,173,000	0	8,173,000	0	0	0		8,173,000
受取セミナー共催費収益	0	0	0	100,089,000	0	100,089,000	0	0	0		100,089,000
専門医申請料 (新規) 収益	0	0	9,300,000	0	0	9,300,000	0	0	0		9,300,000
専門医申請料 (更新) 収益	0	0	182,400,000	0	0	182,400,000	0	0	0		182,400,000
指導医申請料 (新規) 収益	0	0	860,000	0	0	860,000	0	0	0		860,000
指導医申請料 (更新) 収益	0	0	404,000	0	0	404,000	0	0	0		404,000
専門医登録料 (新規) 収益	0	0	4,980,000	0	0	4,980,000	0	0	0		4,980,000
専門医登録料 (更新) 収益	0	0	15,060,000	0	0	15,060,000	0	0	0		15,060,000
セルフトレーニング問題手数料収益	0	0	3,450,000	0	0	3,450,000	0	0	0		3,450,000
VA 血管内治療認定医申請料 (新規) 収益	0	0	980,000	0	0	980,000	0	0	0		980,000
VA 血管内治療認定医登録料 (新規) 収益	0	0	222,000	0	0	222,000	0	0	0		222,000
受取補助金等	5,289,205	0	0	0	0	5,289,205	0	0	0		5,289,205
受取民間助成金	5,289,205	0	0	0	0	5,289,205	0	0	0		5,289,205
受取寄付金	0	0	0	9,785,000	0	9,785,000	0	0	0		9,785,000
受取寄付金	0	0	0	9,785,000	0	9,785,000	0	0	0		9,785,000
雑収益	3,202,881	0	226,382	176,720	0	3,605,983	0	0	1,435,276		5,041,259
雑収益	0	0	216,382	155,720	0	372,102	0	0	1,166,936		1,539,038
雑収益	3,202,881	0	10,000	21,000	0	3,233,881	0	0	268,340		3,502,221
経常収益計	16,031,486	0	57,358,382	462,579,874	74,099	536,043,841	0	203,666	259,393,515		795,641,022
(2) 経常費用											
事業費	103,285,282	51,754,812	57,754,488	447,766,712	7,320,080	667,881,974	1,315,505	581,173	0		669,778,652
給料手当	7,664,040	7,583,269	15,861,772	26,390	0	31,135,471	14,647	8,369	0		31,158,487
退職給付費用	698,850	662,102	1,739,497	0	0	3,100,449	0	0	0		3,100,449
福利厚生費	1,268,906	1,289,594	2,315,188	0	0	4,873,688	0	0	0		4,873,688
会議費	1,342,956	207,661	4,719,807	6,457,606	8,753	12,736,783	41,796	0	0		12,778,579
旅費交通費	1,875,335	626,776	4,022,033	27,984,610	23,632	34,532,386	383,555	0	0		34,915,941
通信運搬費	4,005,380	5,617,843	3,789,561	175,429	1,951,722	15,539,935	0	0	0		15,539,935
広告掲載費	0	0	0	11,224,730	0	11,224,730	0	0	0		11,224,730
減価償却費	966,950	1,526,600	3,616,950	134,750	0	6,245,250	0	0	0		6,245,250
消耗品費	159,556	514,381	709,983	17,073	0	1,400,993	825	496	0		1,402,314
印刷製本費	13,794,704	1,369,720	4,828,313	16,384,957	538,356	36,916,050	0	0	0		36,916,050
光熱水料費	53,467	130,251	155,848	0	0	338,566	0	0	0		339,566
賃借料	1,145,972	2,901,333	3,701,170	195,904,095	0	203,652,570	0	0	0		203,652,570

諸謝金 租税公課 支払負担金 支払助成金 支払寄付金 委託費 雑費 管理費 給料手当 退職給付費用 福利厚生費 会議費 旅費交通費 通信運搬費 減価償却費 消耗品費 印刷製本費 光熱水料費 賃借料 諸謝金 租税公課 委託費 雑費	1,779,536	59,934	2,778,510	10,673,539	32,263	15,323,782	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15,323,782
	274,131	20,000	1,448,887	6,466,782	0	8,209,800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,209,800
	385,000	0	500,000	3,298,900	0	3,798,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,798,900
	0	330,000	275,000	1,726,300	55,000	2,771,300	0	550,000	550,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,321,300
	0	0	0	0	1,050,000	1,050,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,050,000
	67,464,921	28,882,747	4,846,685	160,178,085	3,660,932	265,033,370	39,072	17,578	56,650	0	0	0	0	0	0	0	0	0	265,090,020
	405,578	32,601	2,445,284	7,113,466	22	9,996,951	835,610	4,730	840,340	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,837,291
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58,409,383
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21,510,587
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,443,967
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,581,198
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	740,136
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,913,389
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,836,719
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,392,746
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	528,831
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,192,480
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	181,444
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,954,678
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,466,000
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	920
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,529,490
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51,367,798
経常費用計	103,285,282	51,754,812	57,754,488	447,766,712	7,320,680	667,881,974	1,315,505	581,173	1,896,678	58,409,383									728,188,035
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 87,253,796	△ 51,754,812	△ 396,106	148,131,62	△ 7,246,581	△ 131,838,133	△ 1,315,505	△ 377,507	△ 1,693,012	200,984,132									67,452,987
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0
当期経常増減額	△ 87,253,796	△ 51,754,812	△ 396,106	148,131,62	△ 7,246,581	△ 131,838,133	△ 1,315,505	△ 377,507	△ 1,693,012	200,984,132									67,452,987
2. 経常外増減の部																			
(1) 経常外収益																			
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0
(2) 経常外費用																			
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0
当期経常外増減額																			
他会社支援等前当期一般正味財産増減額	△ 87,253,796	△ 51,754,812	△ 396,106	148,131,62	△ 7,246,581	△ 131,838,133	△ 1,315,505	△ 377,507	△ 1,693,012	200,984,132									67,452,987
他会社支援等額	77,202,109	48,314,517	1,901,158	707,748	7,246,410	135,371,942	1,315,505	26,443	1,341,948	△ 136,713,890									0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 10,051,687	△ 3,440,295	1,505,052	155,209,10	△ 171	3,533,809	0	△ 351,064	△ 351,064	64,270,242									67,452,987
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	108,328,000	0	108,328,000	0	0	0	0									108,328,000
当期一般正味財産増減額	△ 10,051,687	△ 3,440,295	1,505,052	4,688,110	△ 171	△ 7,298,991	0	△ 351,064	△ 351,064	64,270,242									56,620,187
一般正味財産期首残高	△ 6,378,714	△ 12,452,555	120,791,184	97,391,044	35,107,613	234,538,572	0	90,911,854	90,911,854	741,362,074									1,066,732,500
一般正味財産期末残高	△ 16,430,401	△ 15,892,850	122,296,236	102,079,154	35,107,442	227,159,581	0	90,560,790	90,560,790	805,632,316									1,123,352,687
II 指定正味財産増減の部																			
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0
III 正味財産期末残高	△ 16,430,401	△ 15,892,850	122,296,236	102,079,154	35,107,442	227,159,581	0	90,560,790	90,560,790	805,632,316									1,123,352,687

財務諸表に関する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・・・・・・・・定額法によっている。

ソフトウェア・・・・・・・・定額法によっている。

(2) 引当金の計上基準

賞与引当金・・・・・・・・職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当期に帰属する額を計上している。

退職給付引当金・・・・・・・・職員の退職給付に備え、自己都合による期末要支給額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産 定期預金	100,000,000	—	—	100,000,000
小 計	100,000,000	—	—	100,000,000
特定資産				
学術集会積立資金	40,000,000	—	—	40,000,000
国際交流援助積立資金	30,000,000	—	—	30,000,000
災害援助事業積立資金	35,000,000	—	—	35,000,000
コメディカルスタッフ研究助成資金	80,000,000	—	—	80,000,000
60周年記念資金	25,000,000	—	—	25,000,000
小 計	210,000,000	—	—	210,000,000
合 計	310,000,000	—	—	310,000,000

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産 定期預金	100,000,000	—	(100,000,000)	—
小 計	100,000,000	—	(100,000,000)	—
特定資産				
学術集会積立資金	40,000,000	—	(40,000,000)	—
国際交流援助積立資金	30,000,000	—	(30,000,000)	—
災害援助事業積立資金	35,000,000	—	(35,000,000)	—
コメディカルスタッフ研究助成資金	80,000,000	—	(80,000,000)	—
60周年記念資金	25,000,000	—	(25,000,000)	—
小 計	210,000,000	—	(210,000,000)	—
合 計	310,000,000	—	(310,000,000)	—

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金 受取民間助成金	大塚製薬工場	17,586,810	0	5,289,205	12,297,605	前受金 流動負債
合 計		17,586,810	0	5,289,205	12,297,605	

6. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務及びその内訳

(単位：円)

①退職給付債務	39,642,393
②退職給付引当金	39,642,393

(3) 退職給付費用に関する事項

(単位：円)

①勤務費用	4,544,416
②退職給付費用	4,544,416

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額に基づき計算している。

7. 金融商品関係

金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当法人は、資金運用については預貯金に限定している。

8. 重要な後発事象

該当なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に関する注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
賞与引当金	4,849,270	4,731,765	4,849,270	4,731,765
退職給付引当金	35,097,977	4,544,416	—	39,642,393

財産目録

令和 8 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)				
	現金 預金	手元保管 普通預金 りそな銀行本郷支店 りそな銀行本郷支店 みずほ銀行本郷支店 みずほ銀行本郷支店 三菱 UFJ 銀行本郷支店 三菱 UFJ 銀行本郷支店 三井住友銀行西宮支店 阿波銀行蔵本支店 郵便振替 郵便振替 郵便振替 定期預金 りそな銀行本郷支店 みずほ銀行本郷支店 みずほ銀行本郷支店 ゆうちょ銀行	運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 第 71 回学術集会・総会の資金として 第 72 回学術集会・総会の資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 実施事業及び管理業務で発生した収益等で 未収のもの 学術雑誌発行事業及び学術集会等開催事業等 で次年度に発生する費用が前払いのもの	11,739 678,911,084 1,368,155 915,365 499,309,711 25,205,175 122,405,904 10,560,790 14,739,228 4,406,756 428,617 362,245 66,372 170,000,000 50,000,000 100,000,000 10,000,000 10,000,000 14,390,656 8,451,811
	未収金			
	前払金			
流動資産合計				872,193,907
(固定資産)				
基本財産	定期預金	りそな銀行本郷支店	実施事業及び管理業務の共有財産であり運用 益をそれぞれの財源として使用	100,000,000
特定資産	学術集会積立資金	定期預金 みずほ銀行本郷支店	学術集会に備えた資金	40,000,000
	国際交流援助積立資金	定期預金 みずほ銀行本郷支店	国際交流に備えた資金	30,000,000
	災害援助事業積立資金	定期預金 みずほ銀行本郷支店	国内外の災害援助に備えた資金	35,000,000
	コメディカルスタッフ 研究助成資金	定期預金 三菱 UFJ 銀行本郷支店	コメディカルスタッフの学術研究助成を目的 とした資金	80,000,000
	60 周年記念資金	定期預金 みずほ銀行本郷支店	創立 60 周年記念事業に備えた資金	25,000,000
その他固定資産	什器備品 減価償却累計額 電話加入権 ソフトウェア 保証金 腎代替療法医療専門職 推進協会基金	7 本 アラミドビル他	実施事業及び管理業務に使用 実施事業に使用 実施事業及び管理業務に使用 実施事業に使用	2,341,030 △ 2,341,028 224,952 7,033,035 8,899,770 20,000,000
固定資産合計				346,157,759
資産合計				1,218,351,666
(流動負債)				
	未払金		実施事業及び管理業務で発生した費用で未払 のもの	15,307,114
	前受金		実施事業で次年度の収益が前受のもの	21,251,605
	預り金		職員 3 月分源泉所得税等	801,302
	賞与引当金		実施事業及び管理業務に従事する職員の賞与 の支払いに備えたもの	4,731,765
	未払法人税等			10,762,800
	未払消費税等			2,502,000
流動負債合計				55,356,586
(固定負債)				
	退職給付引当金		実施事業及び管理業務に従事する職員の退職 金の支払いに備えたもの	39,642,393
固定負債合計				39,642,393
負債合計				94,998,979
正味財産				1,123,352,687

独立監査人の監査報告書

令和 8 年 5 月 7 日

一般社団法人 日本透析医学会

理 事 長 友 雅 司 殿

岩渕道男公認会計士事務所

長野県松本市

公認会計士

岩渕道男

山崎公認会計士事務所

東京都千代田区

公認会計士

山崎友揮

監査意見

私たちは、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本透析医学会の令和7年4月1日から令和8年3月31日までの令和7年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準（平成20年4月11日 内閣府公益認定等委員会、改正令和2年5月15日）に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私たちは、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私たちの責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私たちは、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私たちの財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私たちはその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことに

ある。

私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私たちが報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

利害関係

法人と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

令和 8 年度正味財産増減予算書

自 令和 8 年 4 月 1 日
至 令和 9 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

正味財産増減予算書（事業区分別正味財産増減方式）

令和 8 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで

（単位：円）

科 目	継 1 学術雑誌 発行事業	継 2 統計調査 事業	継 3 専門医等 認定事業	継 4 学術集会等 開催事業	継 5 災害援助 事業	実施事業 共 通	実施事業 小 計	他 1 学会賞等 付与事業	他 2 研究助成 事業	その他 事業 共 通	その他 事業 小 計	法人会計	総 計
I 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
・基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	250,000	250,000
・特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	250,000	250,000
・特定資産受取利息	0	0	0	350,000	120,000	0	470,000	0	250,000	0	250,000	0	720,000
・受取会費	0	0	0	350,000	120,000	0	470,000	0	250,000	0	250,000	0	720,000
・正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	274,755,000	274,755,000
・施設会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	144,675,000	144,675,000
・賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	124,980,000	124,980,000
・事業収益	6,400,000	0	0	478,306,000	0	0	557,226,000	0	0	0	0	5,100,000	5,100,000
論文掲載料収益	3,000,000	0	72,520,000	0	0	0	3,000,000	0	0	0	0	0	557,226,000
広告掲載料収益	700,000	0	0	0	0	0	700,000	0	0	0	0	0	3,000,000
特別号頒布収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	700,000
転載許諾料収益	2,700,000	0	0	0	0	0	2,700,000	0	0	0	0	0	0
受取参加費収益	0	0	0	243,880,000	0	0	243,880,000	0	0	0	0	0	2,700,000
受取展示会費収益	0	0	0	113,426,000	0	0	113,426,000	0	0	0	0	0	243,880,000
受取広告料収益	0	0	0	13,240,000	0	0	13,240,000	0	0	0	0	0	113,426,000
受取セミナー共催費収益	0	0	0	107,760,000	0	0	107,760,000	0	0	0	0	0	13,240,000
専門医申請料（新規）収益	0	0	8,100,000	0	0	0	8,100,000	0	0	0	0	0	107,760,000
専門医申請料（更新）収益	0	0	20,400,000	0	0	0	20,400,000	0	0	0	0	0	8,100,000
指導医申請料（新規）収益	0	0	800,000	0	0	0	800,000	0	0	0	0	0	20,400,000
指導医申請料（更新）収益	0	0	4,500,000	0	0	0	4,500,000	0	0	0	0	0	800,000
専門医登録料（新規）収益	0	0	4,600,000	0	0	0	4,600,000	0	0	0	0	0	4,500,000
専門医登録料（更新）収益	0	0	27,600,000	0	0	0	27,600,000	0	0	0	0	0	4,600,000
セルフトレーニング問題手数料収益	0	0	5,100,000	0	0	0	5,100,000	0	0	0	0	0	27,600,000
VA 血管内治療認定医申請料（新規）収益	0	0	1,120,000	0	0	0	1,120,000	0	0	0	0	0	5,100,000
VA 血管内治療認定医申請料（更新）収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,120,000
VA 血管内治療認定医登録料（新規）収益	0	0	300,000	0	0	0	300,000	0	0	0	0	0	0
VA 血管内治療認定医登録料（更新）収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300,000
・受取補助金	12,781,000	0	0	10,000,000	0	0	22,781,000	0	0	0	0	0	0
受取補助金	0	0	0	10,000,000	0	0	10,000,000	0	0	0	0	0	22,781,000
・受取民間等助成金	12,781,000	0	0	0	0	0	12,781,000	0	0	0	0	0	10,000,000
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12,781,000
・受取寄付金	0	0	0	4,000,000	0	0	4,000,000	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	4,000,000	0	0	4,000,000	0	0	0	0	0	4,000,000
・雑収益	3,500,000	0	200,000	0	0	0	3,700,000	0	0	0	0	1,500,000	4,000,000
受取利息	0	0	200,000	0	0	0	200,000	0	0	0	0	0	5,200,000
雑収益	3,500,000	0	0	0	0	0	3,500,000	0	0	0	0	1,200,000	1,400,000
【経常収益計】	22,681,000	0	72,720,000	492,656,000	120,000	0	588,177,000	0	250,000	0	250,000	276,505,000	864,932,000
(2) 経常費用													
・事業費	112,923,000	624,790,000	57,976,000	459,406,000	4,099,000	0	696,883,000	1,346,000	957,000	0	2,303,000	0	699,186,000
給料手当	7,680,000	7,560,000	16,207,000	28,000	0	0	31,475,000	15,000	8,000	0	23,000	0	31,498,000

令和8年5月14日

監査報告

一般社団法人日本透析医学会

監事 内田 潤次 

監事 齋藤 満 

監事 小川 哲也 

令和7年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、監事小川哲也は決算の分野を中心に、監事齋藤 満は事業の分野を中心に、監事内田潤次は各分野を総括し調査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施しました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の施行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3. 追記情報 特になし

『一般社団法人 日本透析医学会評議員選出規則の一部改正（案）新旧対照表』

現 行	改正案
一般社団法人日本透析医学会評議員選出規則 第1章 総 則 第1条 評議員の選出は一般社団法人日本透析医学会定款に定められたことのほかは、この規則による。 第2条 評議員は、選挙によって選出される。 第3条 選挙は全国統一地区（以下「全国区」という）および次の7地区（以下「地方区」という）に分けて行う。 1. 北海道・東北地区（北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島） 2. 関東地区（東京都を除く）（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川） 3. 東京地区（東京都） 4. 甲信越・北陸・東海地区（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重） 5. 近畿地区（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山） 6. 中国・四国地区（鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知） 7. 九州・沖縄地区（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄） 第2章 評議員選出委員会 （構成） 第4条 評議員選出委員は次の各項に定める委員よりなり、評議員選出委員会を構成する。 1) 理事長の指名する理事（評議員選出委員会委員長）1名 2) 全国区委員3名 3) 各地区委員各1名 2 委員の任期は日本透析医学会定款第17条第1項の規定を準用する。ただし、再任を妨げないが、通算10年をこえることはできない。 3 委員に欠員が生じた場合は、理事長は速やかに補充するものとする。その者の任期は前任者の残任期間とする。 （職務） 第5条 評議員選出委員会は、次に掲げる職務を行う。 1) 評議員選挙の管理 2) 評議員選挙の執行に必要な業務	一般社団法人日本透析医学会評議員選出規則 現行どおり

現 行	改正案
第3章 評議員の選出 (評議員の定数) 第6条 評議員定数は220名とする。その内80名は全国区、140名は地方区より選出する。 2 地方区における評議員定数は、選挙のつど当該地区における正会員の数から比例配分により決定する。 この算定は評議員選出委員会が行い、理事会の承認を経て公示する。 (選挙の公示) 第7条 評議員選出委員会は、選挙が行われる前年の10月下旬に電子公告を行わなければならない。 (選挙権) 第8条 選挙権は、選挙が行われる前年の10月1日現在の正会員とする。 2 有権者の所属地区は、選挙が行われる前年の10月1日現在の勤務地とする。ただし、勤務していない者は居住地とする。 (有権者名簿) 第9条 評議員選出委員会は、選挙の行われる前年の10月1日現在の有権者名簿を、10月下旬に電子公告を行わなければならない。 2 有権者は、有権者名簿に脱漏、誤記を認めたときは、選挙の行われる前年の11月20日までに、評議員選出委員会に異議を申し立てることができる。 3 評議員選出委員会が異議の申し立てを認めたときは、有権者名簿の訂正を行い、これを必要な範囲において有権者に公示しなければならない。 (被選挙権) 第10条 被選挙人は、選挙が行われる前年の10月1日現在の正会員で、評議員選出委員会に全国区あるいは地方区の評議員として立候補し、受理された会員とする。 2 任期満了の年の4月1日までに満65歳に達する者は次期被選挙者になることはできない。 (立候補の届出及び辞退) 第11条 立候補しようとする者は、選挙の行われる前年の11月20日までに、所定の用紙で評議員選出委員会に届け出なければならない。 2 立候補しようとする者は、全国区あるいは地方区のどちらか一方を明記し、両区に立候補することはできない。また、地方区の2つ以上に立候補することはできない。 3 地方区に立候補しようとする者は、当該区に勤	現行どおり

現 行	改正案
務する者でなければならない。ただし、勤務していない者は居住地とする。 4 候補者であることを辞退する場合は、選挙の行われる前年の12月1日までに、自署により立候補辞退届を評議員選出委員会委員長に提出しなければならない。 (候補者の公示) 第12条 評議員選出委員会は候補者の氏名を、選挙の行われる前年の12月下旬に電子公告を行わなければならない。 (選挙の期日) 第13条 選挙の期日は評議員任期満了の年の2月15日とする。 (投票) 第14条 有権者は、選出しようとする者の氏名を、評議員選出委員会から郵送された投票用紙に記入して、前条の定める選挙期日までに所定の返信用封筒に封緘し送付しなければならない。ただし、選挙期日当日の消印があるもの又はこれに準ずるものは有効とする。 2 全国区は40名以内、地方区は評議員選出委員会が定めた地方区別の定数の半数以内を記入する。ただし、端数は切り上げる。 3 投票は無記名とする。 (開票) 第15条 評議員選出委員会は選挙期日までに開票立会人若干名を指名する。ただし、開票立会人のうち、1名は法律の専門家を含めなければならない。 第16条 開票は評議員選出委員会が開票立会人のもとに、選挙終了後ただちに行わなければならない。 (投票の効力) 第17条 投票の効力は評議員選出委員会が開票立会人の意見を聞き、決定する。 第18条 以下の投票は各項に記載されたごとく処理する。 1) 所定の投票用紙以外の投票用紙に記載したものは、すべて無効とする。 2) マークシートの記載が不正確なものは無効とする。 3) 所定の連記数を超過して記載した場合は、記載事項すべてを無効とする。 4) 第13条及び第14条第1項に定めた期日を超過して送付されてきたものは無効とする。 5) 所定の返信用封筒には当該有権者の投票用紙のみ封緘することとし、他の有権者の投票用紙を含め封緘し送付してきた投票用紙及び所定の返信用封筒に封緘せず他の有権者の	現行どおり (投票) 第14条 有権者は、選出しようとする者の氏名を、評議員選出委員会から郵送された投票用紙に記入して、前条の定める選挙期日までに<u>評議員選出委員会</u>が送付した返信用封筒に封緘し<u>評議員選出委員会</u>あてに送付しなければならない。ただし、選挙期日当日の消印があるもの又はこれに準ずるものは有効とする。 現行どおり 第18条 以下の投票は各項に記載されたごとく処理する。 1) <u>評議員選出委員会</u>が送付した投票用紙以外の投票用紙に記載したものは、すべて無効とする。 2) マークシートの記載が不正確なものは無効とする。 3) <u>投票用紙</u>に記載されている<u>投票数</u>を超過して記載した場合は、記載事項すべてを無効とする。 4) 第13条及び第14条第1項に定めた期日を超過して送付されてきたものは無効とする。 5) <u>評議員選出委員会</u>から送付した返信用封筒には当該有権者の投票用紙のみ封緘することとし、他の有権者の投票用紙を含め封緘し送付してきた投票用紙は無効とする。また、評

現 行	改正案
投票用紙とまとめて送付してきた投票用紙は全て無効とする。 (当選者の決定) 第19条 当選の決定は、第3条、第6条に定める全国区、地方区の定数に応じ、有効投票数の多いものから順次当選者とする。 2 投票が同数の場合、開票立会人の立会いのもとに委員長が抽選を行い、当選者を決める。 第20条 候補者数が定数を超えない場合は、投票を行うことなく候補者を当選者とする。ただし、欠員は補充しない。 第21条 当選者が決定した場合、評議員選出委員会はすみやかに当選者に通知し、電子公告を行わなければならない。また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率をいう。）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示しなければならない。 (異議の申し立て) 第22条 選挙の効力に関し異議のある選挙者あるいは候補者は、選挙結果発表日より14日以内に文書で評議員選出委員会に対し異議申し立てができる。 第23条 選挙に関する不正行為の有無は評議員選出委員会において審議、決定し、理事長に報告する。 (当選者の繰上げ、補充) 第24条 選挙日より50日以内に、当選者が辞退あるいは会員の資格を失ったときは、次点の者を順次繰上げ当選者とする。 (選挙区の変更) 第25条 評議員の内、地区別評議員が所属する選挙区を変更したことによって生じた評議員数の減少は補充せず、また増加は増加のままとし、次の選挙で是正する。 第4章 補 則 第26条 本規則は、理事会および総会決議を経て変更することができる。 附則 本規則は平成5年7月17日から施行する。 附則 本規則は平成7年6月24日から施行する。 附則 本規則は平成9年7月18日から施行する。 附則 本規則は平成12年6月16日から施行する。 附則 本規則は平成23年4月15日から施行する。	<u>議員選出委員会が送付した返信用封筒によらずそれ以外の封筒により送付してきた投票用紙は全て無効とする。</u> 現行どおり

現 行	改正案
附則 本規則は平成 23 年 11 月 18 日から施行する。 附則 本規則は平成 24 年 3 月 16 日から施行する。 附則 本規則は平成 24 年 6 月 23 日から施行する。 附則 本規則は平成 24 年 9 月 3 日から施行する。 附則 本規則は令和 元 年 12 月 6 日から施行する。 附則 本規則は令和 2 年 7 月 19 日から施行する。 附則 本規則は令和 4 年 5 月 27 日から施行する。 附則 本規則は令和 7 年 6 月 26 日から施行する。	現行どおり 附則 本規則は令和 8 年 6 月 18 日から施行する。